

はじめに

みなさんこんにちは。
代官です。



はじめに

…ではなくて、
学芸員の中野です。

よくこんなかっこうを
させられています。



はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響で、4月から設置しております「おうちで古文書講座」も、今回で5回目になりました。

「おうちで…」開催の経緯などについては、これまでの小畑・海老沼両学芸員の講座にまとめられていますので、ここで繰り返すことはいたしません。

はじめに

専門家からは「（新型コロナウイルスの感染拡大は）だいたいピークに達した」という見解も出てきました。いっぽう、感染拡大のピークから、やや遅れて重症者のピークがやってくるという予測もあります。

今回はこうした状況で、感染症の最前線で、文字通り懸命の努力を続けておられる医療従事者のみなさまへの敬意を表すべく、山梨県における江戸時代の医療に関する古文書を、みなさんといっしょに読んでいきたいと思えます。

はじめに

用意するもの **くずし字辞典**

古文書の学習において、なくてはならないものです。もしまだお持ちでない方は、この機会にぜひご購入をご検討ください。とりあえず辞典と筆記用具さえあれば古文書は読めます。

もうすでにお持ちの方はそれをお使いください
(以下ご紹介するものと違うものでもかまいません)。

はじめに

用意するもの **くずし字辞典**

種類はいろいろありますが、私や私の近辺で使っている人が多いのは次の2つです。

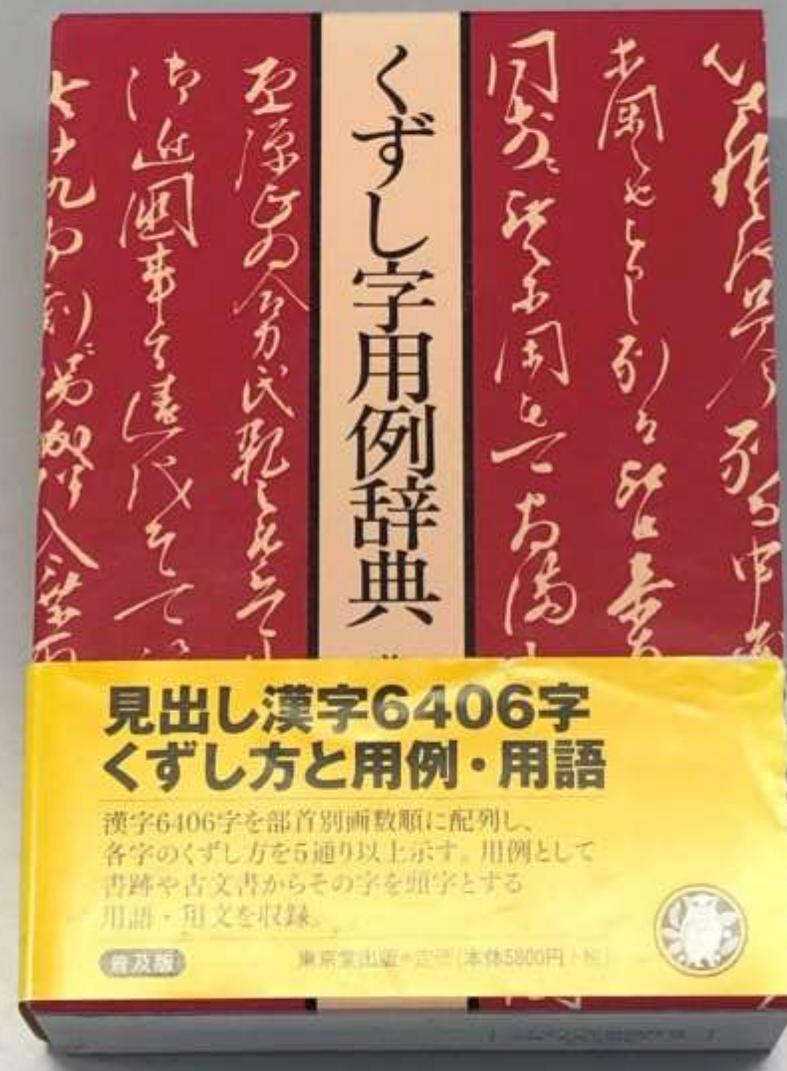
はじめに

用意するもの **くずし字辞典**

『くずし字用例辞典』

(児玉幸多編、東京堂出版)

私が持っているのは古書店で
3,000円ほどで購入したものです。



はじめに

用意するもの **くずし字辞典**

『漢字くずし方辞典』

(児玉幸多編、東京堂出版)

大学時代に先輩からもらったものを
かれこれ20年以上使っています。

小さいので持ち運びに便利です。



はじめに

用意するもの **くずし字辞典**

安いものであれば古書店で2,000円くらいから買えるようです。内容がそう大きく変わるものではないので、個人的には古書で十分だと考えています（もちろん、新品の方が気分がよいですけど）。

はじめに

用意するもの **くずし字辞典**

以下、古文書を読んでいくにあたっては、まめに辞典をひく習慣をつけておくと、後々楽になります。

くずし字だけでなく、国語辞典や漢和辞典など、世の中には便利な、そして古文書を理解するために使える辞典がたくさんあります。そうしたものの力を上手に借りるのも「上達」のコツです。

はじめに

さて、今日読むのは次の写真の古文書です。

近年醫商業根お中々職分
々々々の仰傳と云ふ病緩急
と不知國毒に事得來夜と云
法に攻敵と、液劑と投し、瀉步
之に測と好いとの旨いなる所
族と禁止と爲し同志と志と、志醫學

精練、爲醫學能お之度、
津波所、法願之、旨と攻名方也
代にお頼ひ糸々お透公物、
去年波、いれ、いれ、中、入用、
合、中、全、公、波、い、頼、状、也、

永正四年

辛亥

二月

はじめに

この古文書について、1行ずつ読んで（＝現代の私たちが使う文字に置き換えて）いきます。できるだけ丁寧に、また私が古文を読むときに、どんなところに注目しているのか、その思考回路をご紹介します。

説明をする便宜のため、行ごとに番号を振っておきます。

1 近年醫學業根お中ニ職分
 2 々々々の仰傳と云々病緩急
 3 と不知國毒に事得來夜と云
 4 法に攻敵と、液劑と投し、瀉步
 5 之に測と好いとの旨いなる所
 6 族と禁止く為と同志、古醫學
 7 精誦、為醫學能お之度後
 8 津波所、法願之、中々取台方也
 9 代お頼ひ糸々お透公物史堂約書
 10 去年波、いそ、以形中、入用、諸割
 11 合、中、全、公、波、公、法、頼、状、中
 12

永正四年

辛亥 二月

はじめに

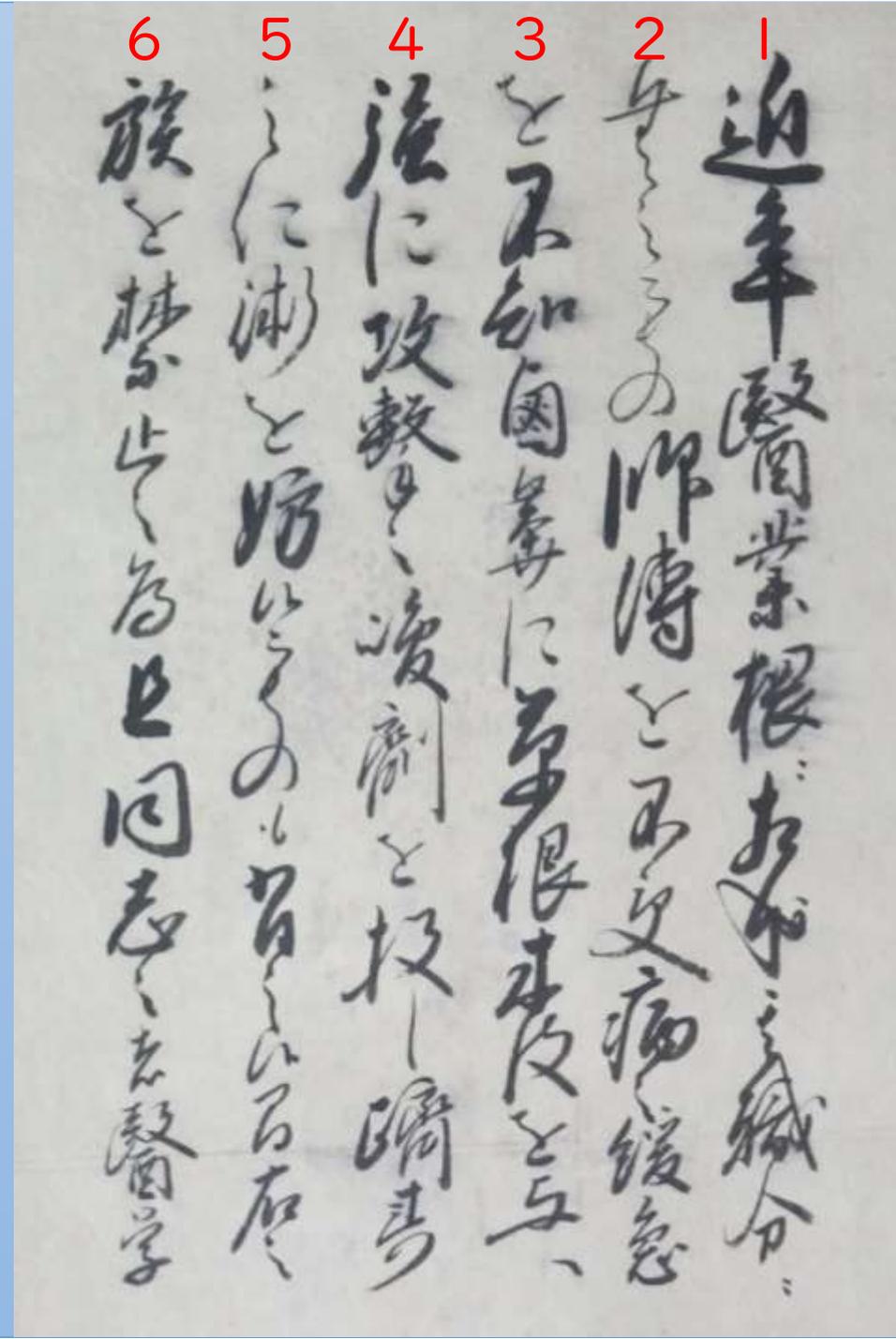
古文書を読むときの考え方をその都度書いてみたところ、
とんでもなく長くなってしまいました…。

一度に全部読もうとすると、たぶん私でも挫折すると思います
ので、何回かに分けてお読みいただくことをお勧めします。

はじめに

さて、準備が整いました。

それでは1行ずつ読んでいきましょう。



1 近年醫學業根お中ニ職分

2 身々々々の仰請とあり病緩急

3 と不知國毒に事得本皮と云

4 法に攻敵と、液劑と投し躰身

5 くに測と好ひるもの習ふる所

6 族と禁ふしるる上同志と醫學

1 近年醫業猥ニ相成其職分
2 身々々々の仰滞と云々病緩急
3 と不知國毒に事得本皮と云
4 法に攻敵と、液劑と投し躡步
5 くに測と好いふのいふる所
6 族と禁ふとるは同を、古醫學

一 近年醫業猥ニ相成其職分ニ

「近年」はなんとなく読めます…
よね？
この「なんとなく」という感覚も
大切です。一応は同じ日本語
で書かれていますから、それを
信じましょう（辞典で文字の形
を調べて裏を取れば完璧です）。

あまりくずれていないので、ここ
はそれほど違和感はないと思い
ます。

1 近年醫業根お中ニ職分
2 身々々々の仰侍と云々病緩急
3 と不知國毒に事得本皮と云
4 法に攻敵と、液劑と投し躰步
5 へに測と好しと云々いふる所
6 族と禁おしとる上同云々古醫學

一 近年**醫業**猥ニ相成其職分ニ

「醫業」、「醫」はわからなくても
「業」は大丈夫なんじゃないか
と思います。

「醫」が「医」の旧字体であるこ
とを知っていれば、そして、今回
のテーマを覚えていたら読めま
す(たぶん)。

1 近年醫業根をおかす職分
2 身々々の仰滞とあり病緩急
3 と不知國毒に事得本皮と与
4 法に攻敵と、液劑と投し躡步
5 くに測と好むもの習ふる所
6 族と禁おしむるも同を、古醫學

一 近年醫業猥ニ相成其職分ニ

「猥(みだり)」、言われてみればそうかな…と置いていただければけっこうです。〈けものへん〉と「畏」に分けられることが確認できますよね。

また、文字の右下の小さな点々も文字です(カタカナの「ニ」)。「ニ」はよくこのように右下にちいさく書かれます。

1 近年醫業猥ニ相成其職分
2 身々々々の仰滞と云々病緩急
3 と不知國毒に事得來及と云々
4 法に攻敵と、液劑と投し躡步
5 くに測と好しと云々いふる
6 族と禁ふと云々る且同云々云々醫學

一 近年醫業猥ニ相成其職分ニ

「相」も「成」も古文書では定番の文字です。特に「相」は頻出ですので、ぜひお手元のくずし字辞典で形を確認してください。

「成」は5月のおうちで古文書講座でも出てきています(54ページ)。

1 近年醫業根をおかす職分
2 身々々の仰滞とある病緩急
3 と不知國毒に事得來夜と云
4 法に攻敵と、液劑と投し躡步
5 くに測と好しうのし言ふる所
6 族と禁おしむるは同を、古醫學

一 近年醫業猥ニ相成**其職分**ニ

「其」・「職」・「分」、いずれも古文書にはよく出てくる文字です。

「其」が読めるようになると初級卒業と言ってもいいかもしれません。

「職」も「分」も、ここではあまりくずれていませんが、もっとくずれた形で出てくることが多い文字です。

辞典で形を確認してください。

1 近年醫業猥ニ相成其職分
2 身々々々の仰滞と云々病緩急
3 と不知國毒に事得來夜と云々
4 法に攻敵と、液劑と投し躡步
5 へに測と好いふのいふる所
6 族と禁ふとるは同を、古醫學

一 近年醫業猥ニ相成其職分 二

「二」。古文書の汚れかな？と思わずに、小さな文字も目ざとく見つけて読んでいきましょう（たまに本当に汚れや虫食いが文字に見えることもあります…）。

「もの」。突然ひらがなが出てきます。「も」は「毛」、「の」は「乃」のくずしです。

この部分の場合は、「その職分にこれ無き…」とくるので、「人」か「者」が来るかな、と推測してもよいでしょう。

文脈からの推測はとても大切です。もちろん、辞典で形を確認して、推測が正しいことを裏付ける必要があります。

2 無之もの師傳を不受病之緩急

1 近年醫術業根お中職分
2 身々々の師傳と云ふ病緩急
3 と不知國毒に事得本皮と云
4 法に攻敵と液劑と扱し躰
5 くに測と好しうのし習ふる
6 族と禁おしるると同を、老醫學

「師」・「傳(伝)」、ここではあまりくずれていないので、あっさり読める方もいるかもしれません。

いずれももっとくずれて出てくることの多い文字です。特に「伝」は辞典で形を確認しておきましょう。

ひらがなの「を」。「遠」のくずしです。ここでは現代のものに近い字形で出てきていますが、もっと「遠」の形を残したくずし方で出てくることもあります。

2 無之もの**師傳**を不受病之緩急

1 近年醫術業根おやふに緩急
2 身々々々の師傳とよみ病緩急
3 と不知國毒に事得本皮とよ
4 法に攻敵と液劑と扱し躰急
5 くに洲と坊はくみのりるる
6 族と禁はくるると同をくを醫字

「不」も頻出です。頻出ばかり
ですみません…でも頻出の文
字をある程度おさえていないと
古文書は読めるようになりませ
ん。

もっとひらがなの「ふ」に近い形
で出てくることも多い文字です。

「受」、現代の文字と見た目が
違うので迷われるかもしれません。

「決」もよく似たくずしになるの
で、あわせて辞典で確認してお
きましょう。

2 無之もの師傳を不受病之緩急

1 近
2 年
3 不
4 決
5 無
6 之
もの師傳を不受病之緩急

「病」は現代のものと字形があまり変わらないので、読みやすいと思います。

「之」はひとますおいといて、「緩急」は「緩」が読めれば「急」を推測できると思います。〈いとへん〉の形を確認しておきましょう。

「病」「?」「緩急」とくるので、「?」は「々」ではなく「之」かな、と推定します。

2 無之もの師傳を不受病之緩急

1 近年醫術業根おやふに職分
2 身々々の師傳とよみ病緩急
3 と不知國毒に事得本皮とよ
4 法に攻敵と液劑と投し躰步
5 くに測と好ひるもの習ふる所
6 族と禁ふくると同を、古醫學

「を」、2行目で出てきたものと同じですね。

「不」も2行目のものと同じです。

「知」はさほどくずれていないのと、「不」の下にあるということから推定します。

「不知」で「知らず」と読みます。

3 **を** 不 知 鹵 莽 に 草 根 木 皮 を 与 へ

6 族と禁止之之同志之醫術字
5 之に測と巧之之の旨之有之
4 法に攻敵之、峻劑と投一躡步
3 と不知國毒に草根木皮と与、
2 身々々の仰請と不文痴緩急、
1 近年 醫 術 業 根 お 中 之 職 分、

「鹵莽(ろもう)」、私には読めませんでした…。

ここでは1文字目が「鹵」かな、と考えると、国語辞典の「鹵」から始まる単語をひたすら調べ、ようやくたどり着くことができました。

知らない言葉はそもそも読めません。古文書が作成された当時の語彙を知っていくことも、古文書読解の大切な作業です。

3 を不知鹵莽に草根木皮を与へ

1 近年醫術業根お中々職分
2 身々々々の仰傳と云々病緩急
3 と不知鹵莽に草根木皮と与へ
4 法に攻敵と、液劑と投し躡步
5 くに測と好むもの言ふる所
6 族と禁せしむるは同を、古醫字

「鹵莽(ろもう)」の意味は、

(1) 塩分を含んだ土地と草の多い野原。土地の荒れ果てていること。また、そのさま。

(2) 軽率で、粗略なこと。また、そのさま。粗略。粗忽。

(『日本国語大辞典』)

だそうです。

3 を不知鹵莽に草根木皮を与へ

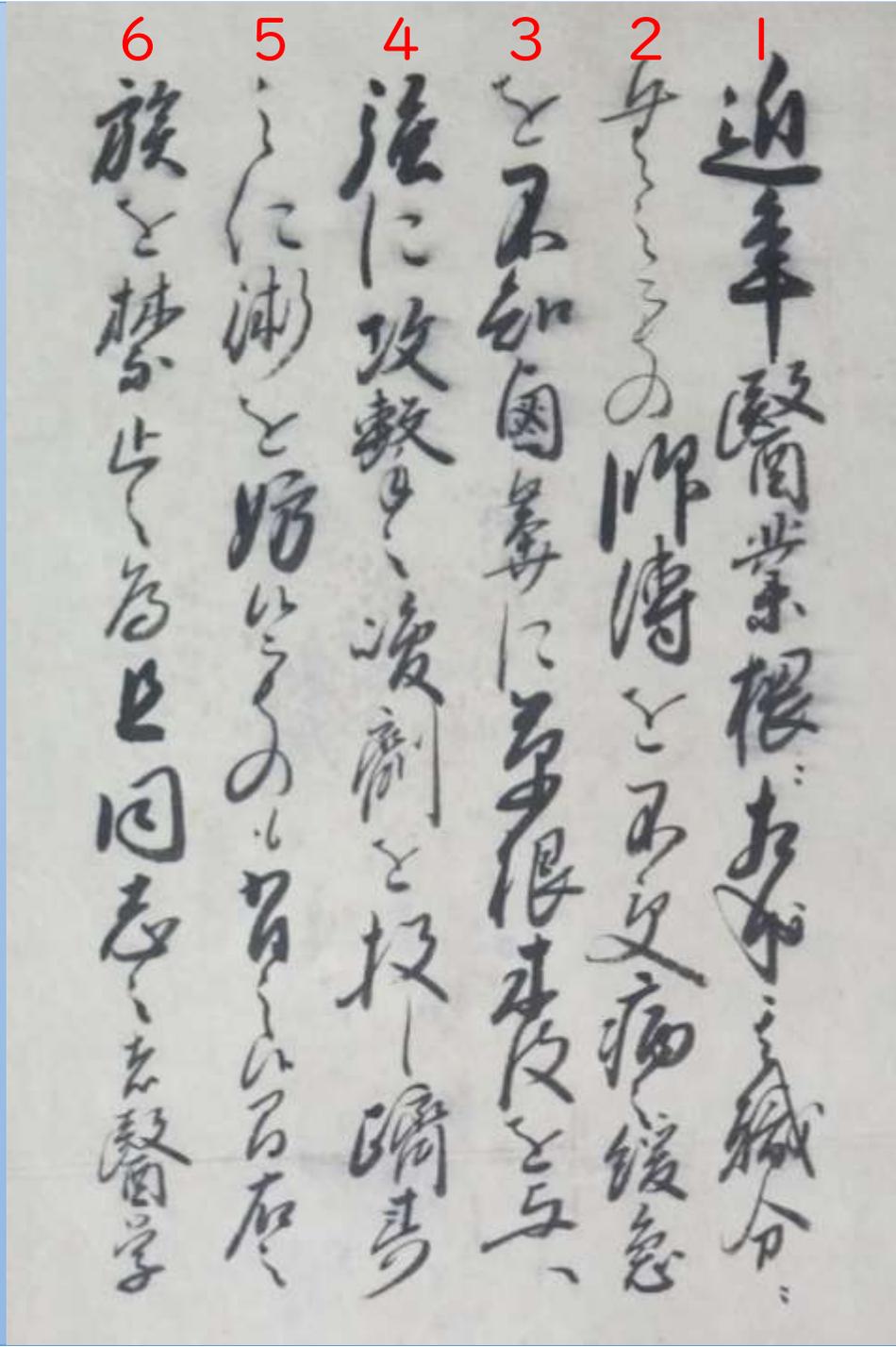
1 近年醫學界におおむね職分、
2 身々々々の仰滞とありて病緩急、
3 と不知國毒に事得本皮と与、
4 法に攻敵も、液劑と投し、
5 くに測と好むもの、
6 族と禁せしむるは、
同志、
志醫學

1 近年醫學業根、お中、職分、
2 身、この仰、傳と、又、病、緩急、
3 と、不知、國、毒、に、事、得、本、皮、と、与、
4 法、に、攻、敵、と、液、劑、と、投、し、躰、步、
5 へ、に、測、と、好、し、る、の、し、習、ふ、る、所、
6 族、と、禁、せ、し、る、と、同、志、と、志、醫、學、

3 を不知鹵莽に草根木皮を与へ

「に」は違和感なく読めると思
います。

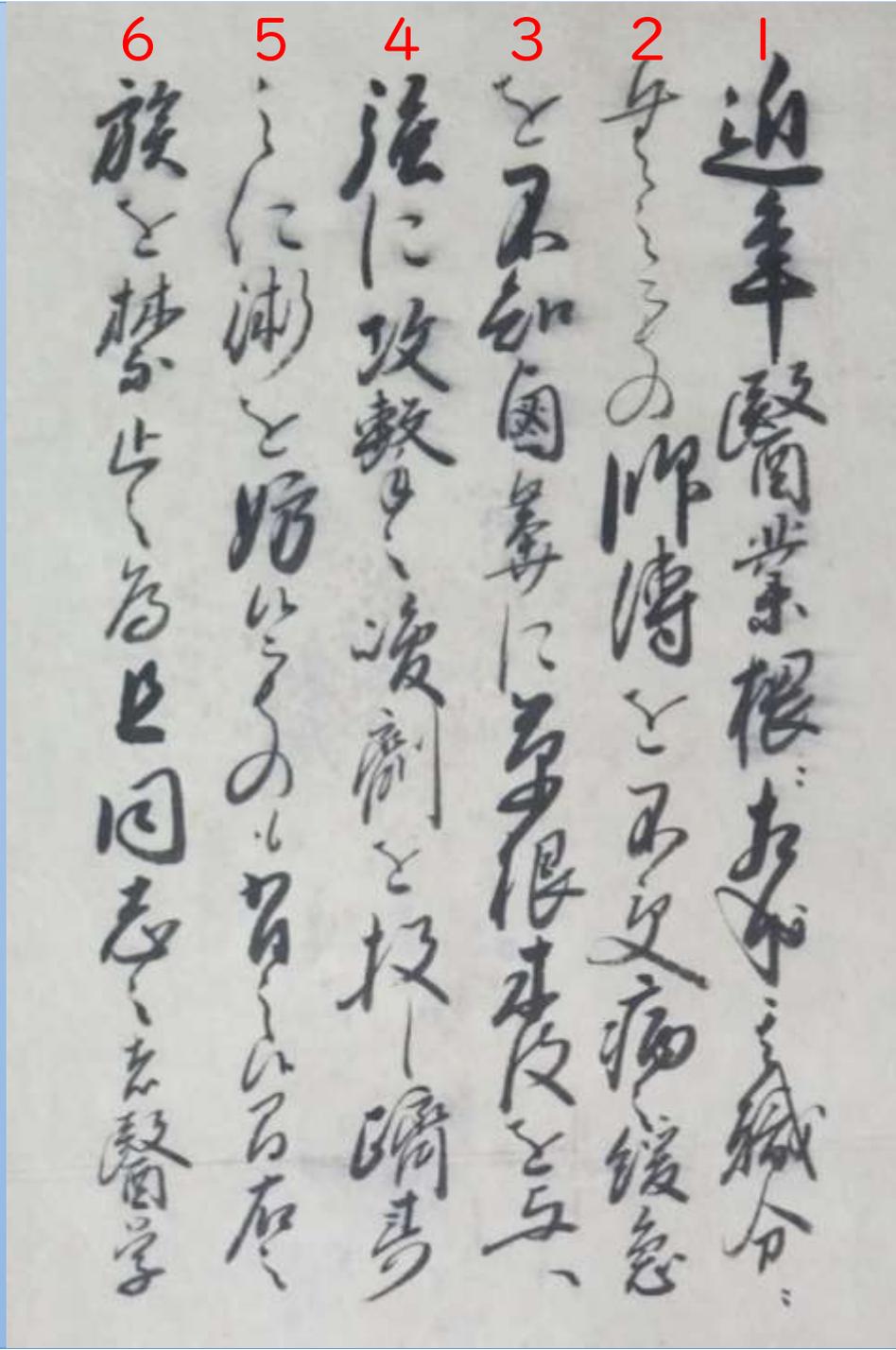
「に」は「仁」のくずして、漢字
の「仁」を「に」と読ませる場合
もあります。



3 を不知鹵莽に**草根木皮**を与へ

この手がかりは「草」と「木」です。「草」は辛うじてくくさかんむり」と「早」が判読できるでしょうか。

「根」は1行目の「猥」と同じに見えるかもしれませんが、微妙に違います(特につくりの部分)。〈きへん〉と〈けものへん〉はこのように区別がつかなくなることもあります。



3 を不知鹵莽に**草根木皮**を与へ

「草」の「根」に対して
「木」の「?」、そしてこの形から
「皮」と推定したいところです。

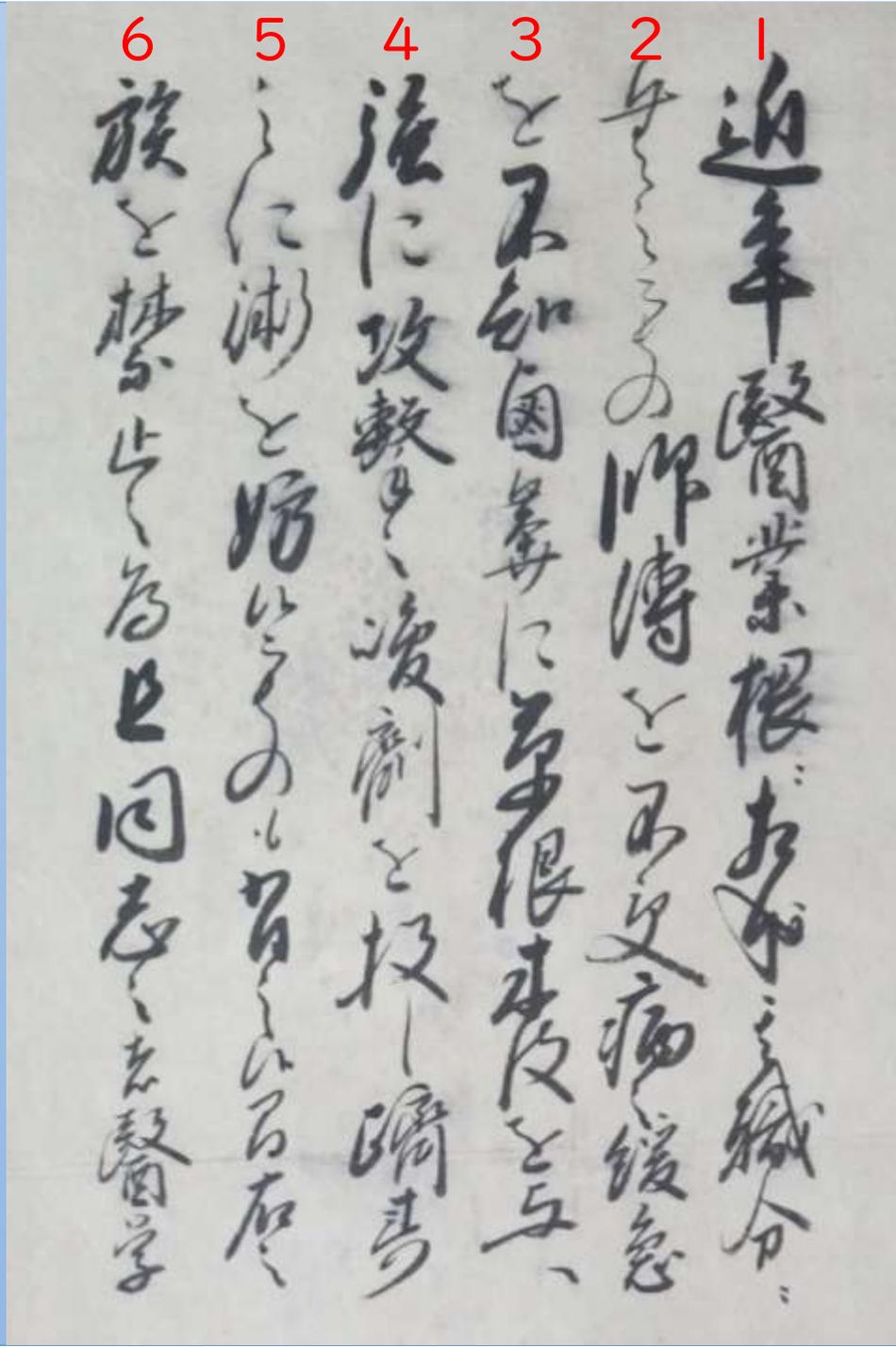
なお、「草根木皮」は「そうこん
ぼくひ」と読み、「草の根と木の
皮。特に漢方で薬剤として用い
る草根と木皮。また、漢方薬。」
という意味がある熟語です。

この熟語を知っていれば一発
ですね。語彙はとても大切。

1 近年醫商業根、お中、職分、
2 身、この仰、侍と、又、病、緩急、
3 と、不知、國、毒、に、事、得、本、皮、と、与、
4 法、に、攻、敵、と、液、劑、と、投、し、躰、步、
5 へ、に、測、と、好、し、る、の、し、習、ふ、る、所、
6 族、と、禁、め、し、る、と、同、志、と、志、醫、学、

3 を不知鹵莽に草根木皮を与へ

「を」。
この「を」と同じですね。
これはわかりやすいでしょう。



3 を不知鹵莽に草根木皮を与へ

「与」も頻出の文字です。ここではさほどくずれていないので読みやすいのですが、もっとくずれた形や、旧字体の「與」としてよく出てきます。ひらがなの「と」と読む場合も多く、必ず辞典で形を確認しておきましょう。

「へ」は「与」の送り仮名なので「え」とよむ「へ」ですね。ひらがなかカタカナか悩むところですが、お好みでよいでしょう。

1 近年醫學業根お中ニ職分
2 身々々々の仰傳と云々病緩急
3 と不知國毒に事得本皮と云
4 法に攻敵と峻劑と投し躋壽
5 くに測と好いふのいふる所
6 族と禁おしるると同云々老醫學

4 強に攻撃之峻劑を投し躋壽

「強に」も「なんとなく」文字の形から読めてしまうのではないのでしょうか。こういう「わかりそうでわからない」文字は、自分で手を動かして書いてみて、筆順を追うとわかることがあります。

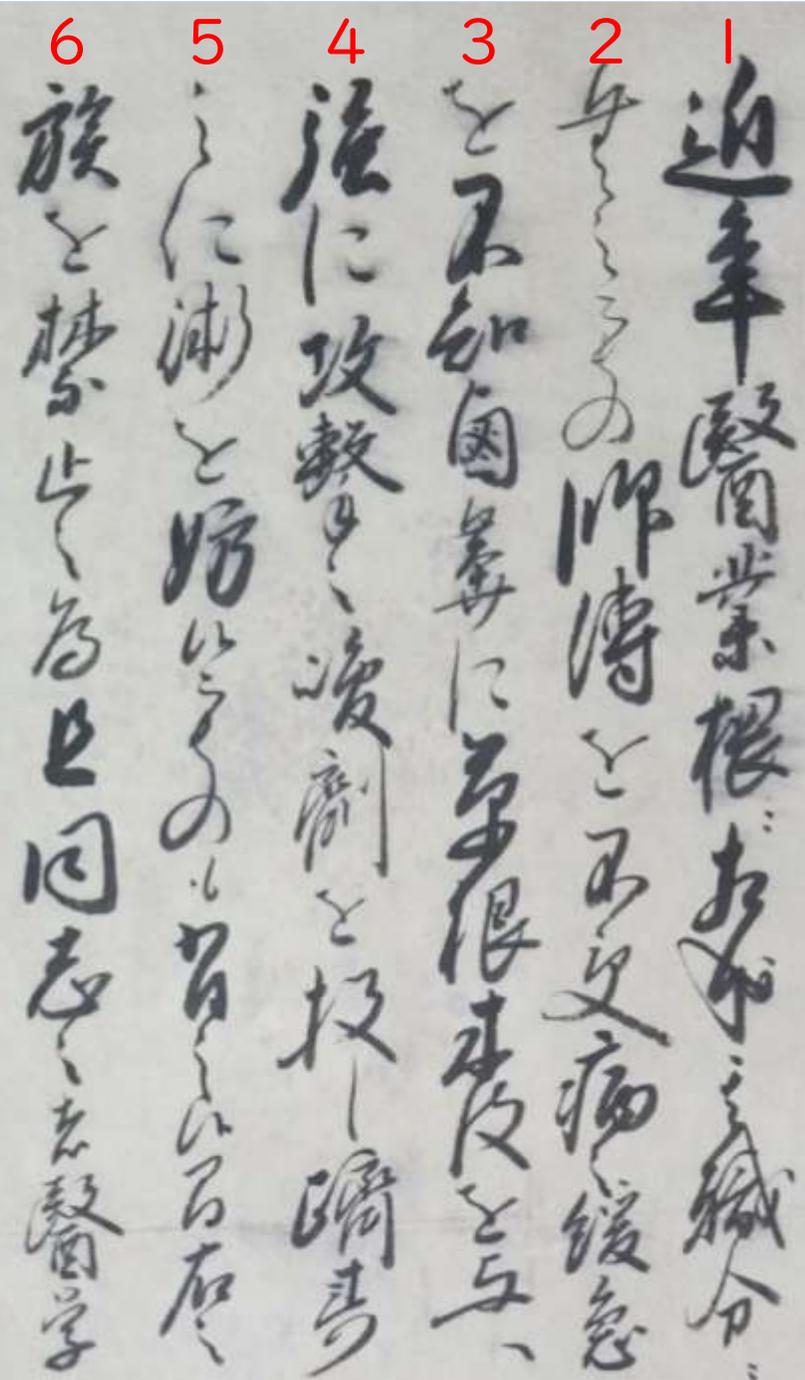
「あながち(に)」という読みを知っていればすぐに読めてしまうのではないのでしょうか。語彙はとても大切(2回目)。

「攻撃」もほとんどくずれていませんから、読めてほしいところです。

「之」はいったんおいといて、「峻」は〈やまへん〉であることがわかればそこから調べられます。

「劑(劑)」も〈りっとう〉で調べていくことになるでしょう。部首でひくタイプの辞典があれば、こういうときに総当たりで調べることができます。

4 強に**攻撃之峻劑**を投し躋寿



1 近年醫學界におおむね職分
2 々々々の仰滞とあり病緩急
3 と不知國毒に事得來夜と云
4 強に攻撃之峻劑と投し躋寿
5 之に峻と好むものありる所
6 族と禁せしむるは同むるを醫學

1 近年醫學業根お中ニ職分
2 身々々々の仰傳とあり病緩急
3 と不知國毒に事得本皮と云
4 法に攻敵と峻劑と投し躋壽
5 之に測と好しとあり名ふる所
6 族と禁ふとるは同也と醫學

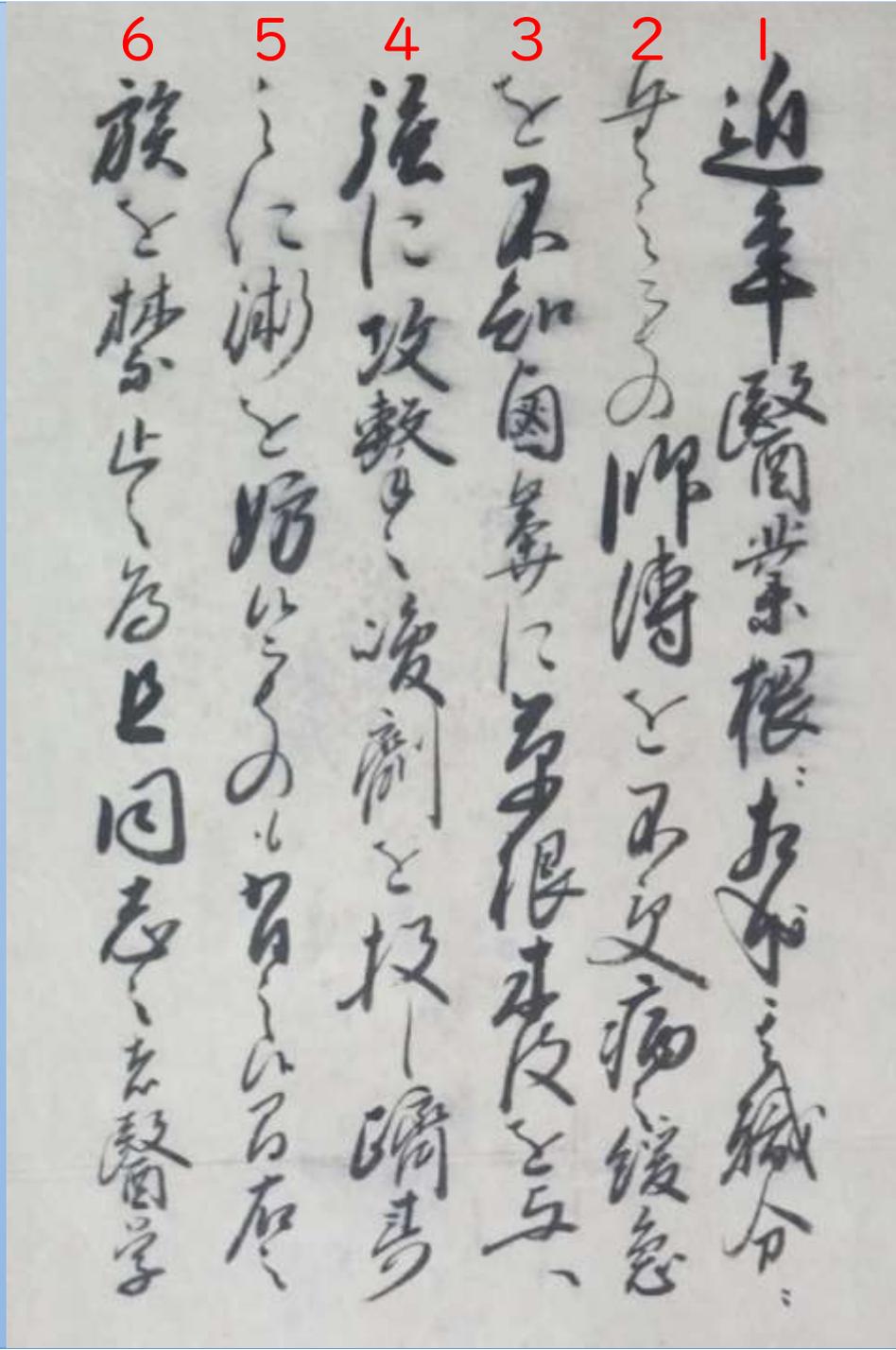
4 強に攻撃之峻劑を投し躋壽

「峻劑」は『日本国語大辞典』には立項されていませんが、「効き目の強すぎる薬」のことを指します。

1 近年醫商業根お中ニ職分
2 身々々々の仰滞と云々病緩急
3 と不知國毒に事得本皮と云々
4 法に攻敵と峻劑と投し躋壽
5 之に測と巧は之の旨を以て
6 族と禁は之を以て同を以て醫學

4 強に攻撃之峻劑を投し躋壽

「を」、4回目。
もう大丈夫ですよ。

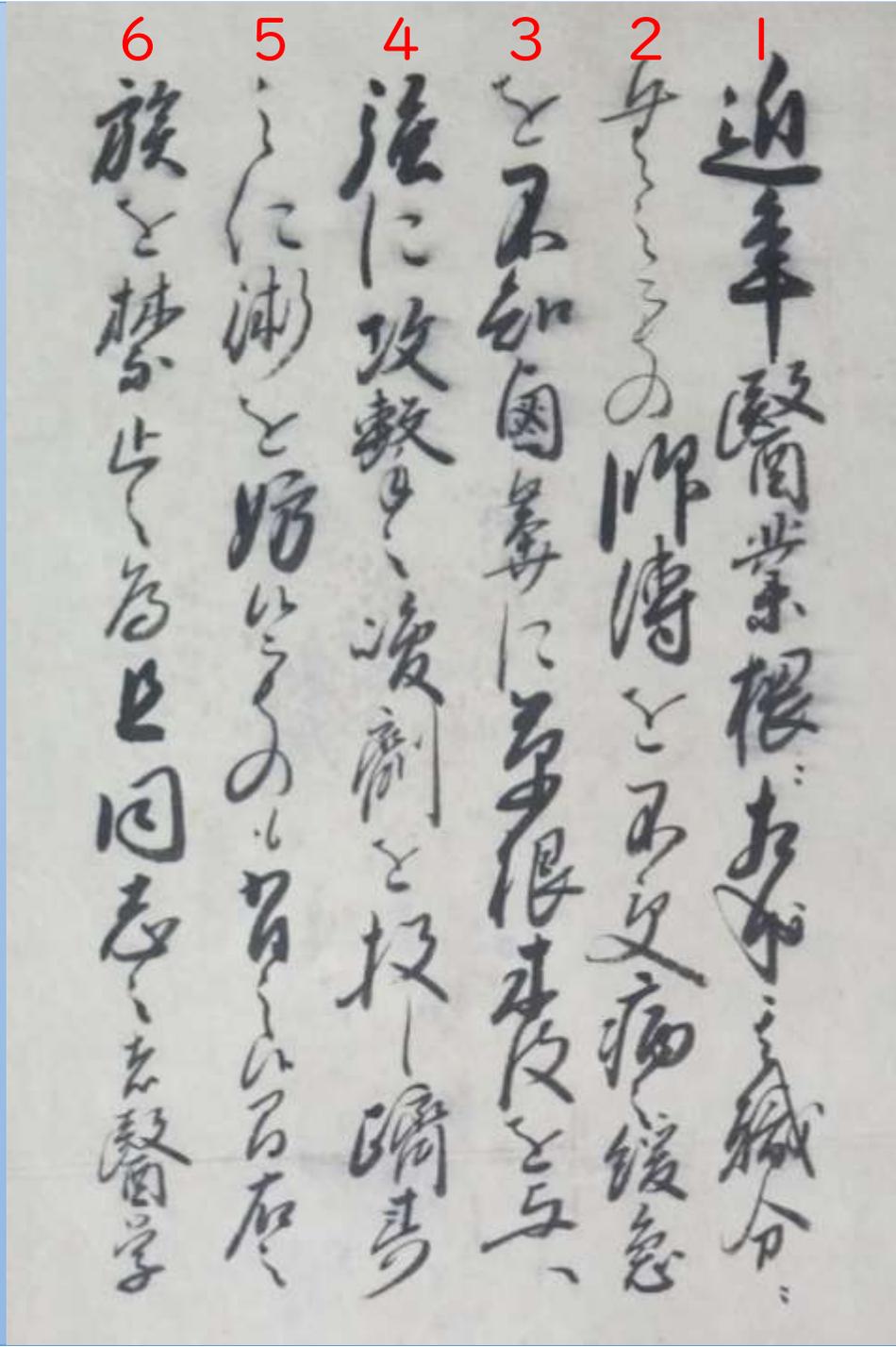


4 強に攻撃之峻劑を**投し躋壽**

「投」の「几」は「又」と連続してこのように書かれることが多いです。

〈てへん〉も〈きへん〉や〈けものへん〉と区別がつきづらくなる場合があります。

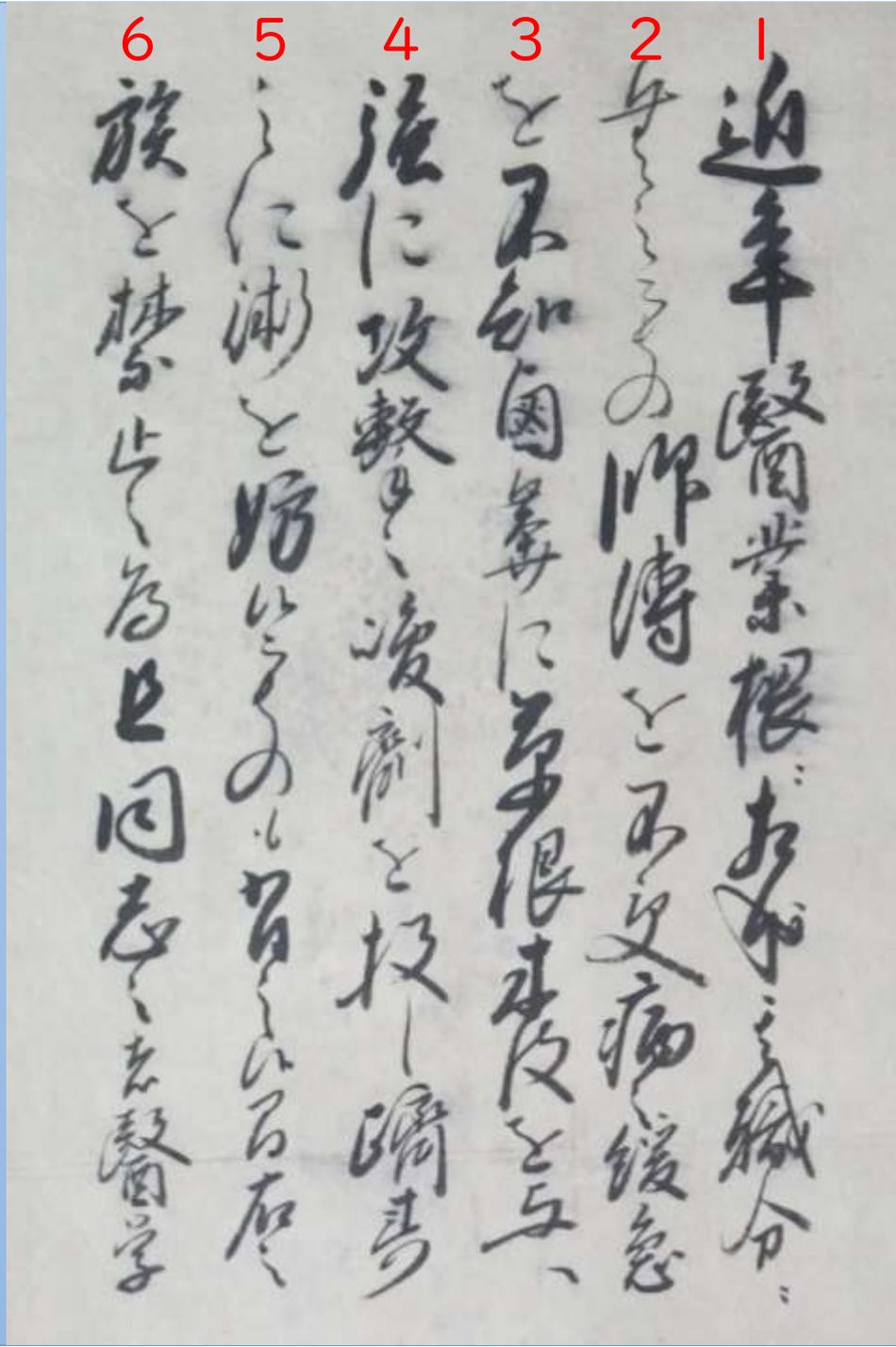
「し」はいろいろな可能性があります(場合によってはこれで「候」と読むこともあります)が、「投」の送り仮名として「投し(じ)」と読めばよいでしょう。



4 強に攻撃之峻劑を投し躋壽

「躋」は「峻」などと同じように〈あしへん〉であることを手掛かりにして、辞典を総当たりします。あるいは上の「劑」と見比べて、つくりが「齋」ではないか、と推測して辞典をひきます。

「壽」はひらがなの「す」としても使われ、女性の名前などとしてもよく出てくる文字です。辞典で形を確認しておきましょう。



1 近年醫學業根お中ニ職分

2 身々々々の仰侍と云々病緩急

3 と不知國毒に事得來夜と云

4 法に攻撃と峻劑と投し躋壽

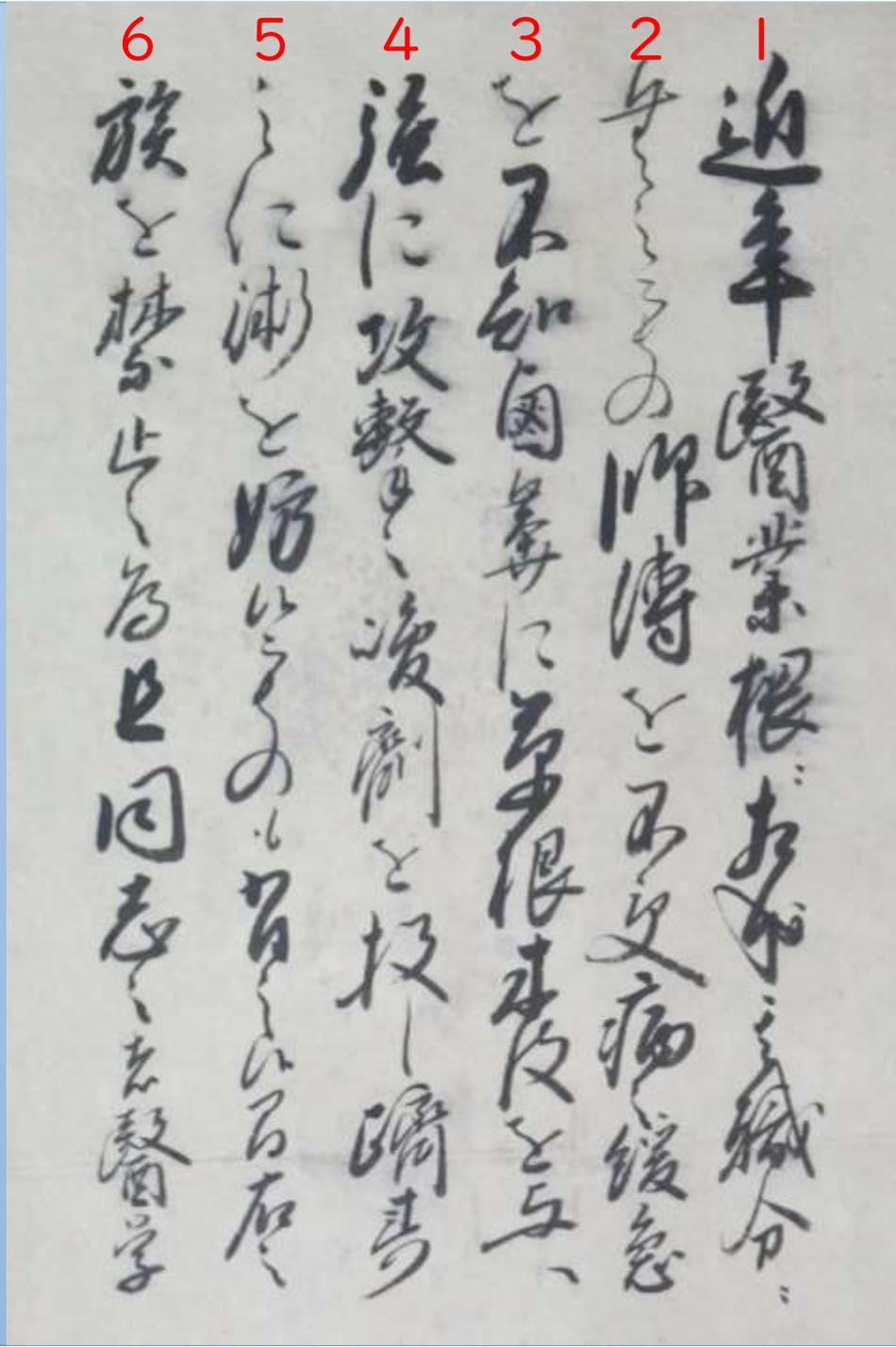
5 くに測と好しうのし言ふる所

6 族と禁せしむるは同志と云々醫學

4 強に攻撃之峻劑を投し躋壽

「躋壽(せいじゅ)」は『日本国語大辞典』には立項されていませんが、「躋」には「高く上がる」という意味があるので、寿命をのばす、というような意味になるのでしょう。

幕府の医官多紀家の私立医学校が「躋壽館」という名前であったことをご存知であれば、そこから連想することもできます。



5 之仁術を妨候ものも有之候間右之

「之」はまたしてもおいといて、「仁術」はそのまま読めるのではないでしようか。「医は仁術」という言葉でもおなじみです。語彙はとても大切(3回目)。

「躋寿」「?」「仁術」、と来るので、やはりここでも「々」ではなく「之」だと判断します。

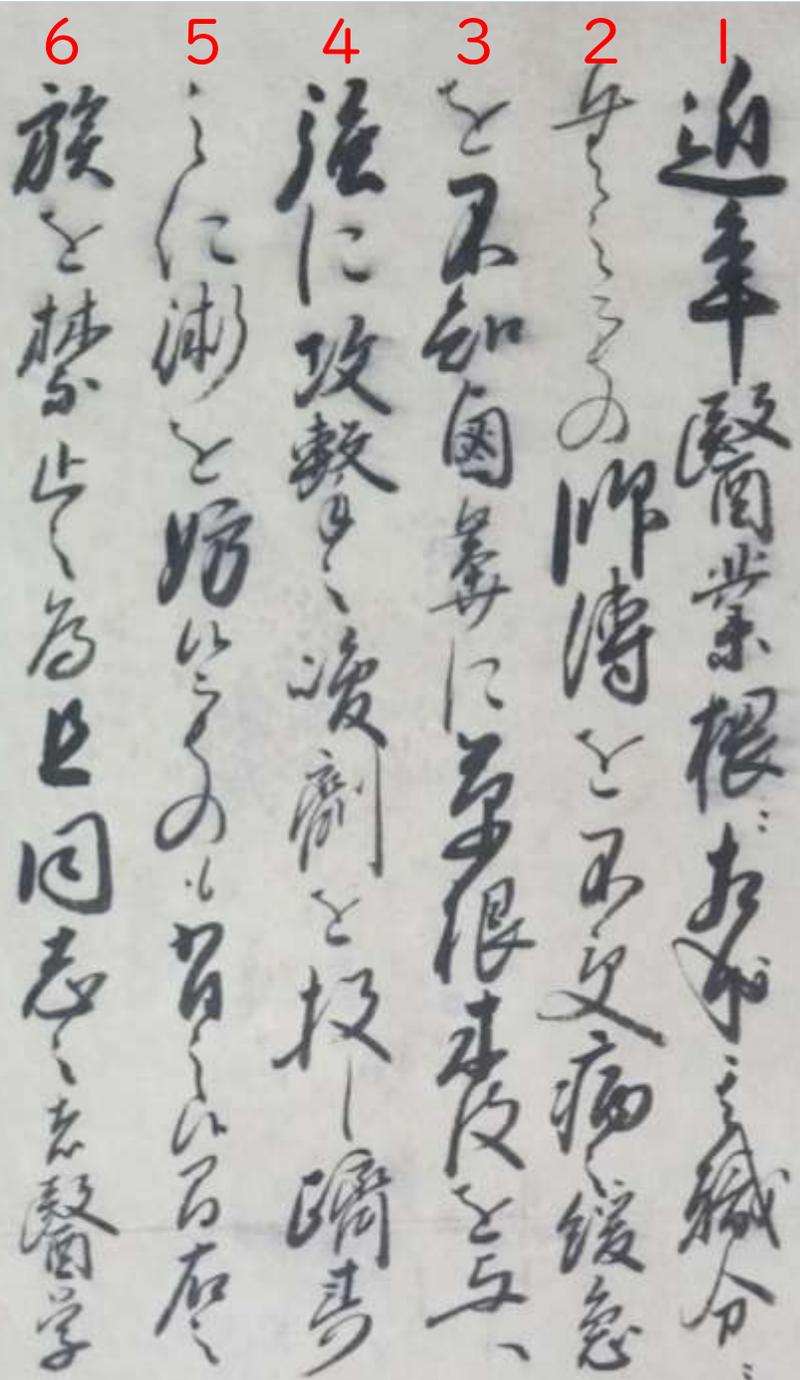
そして5回目の「を」。

「妨」はそのままで読めると思いますが、おんなへんと「方」に分けられることを確認しておきましょう。

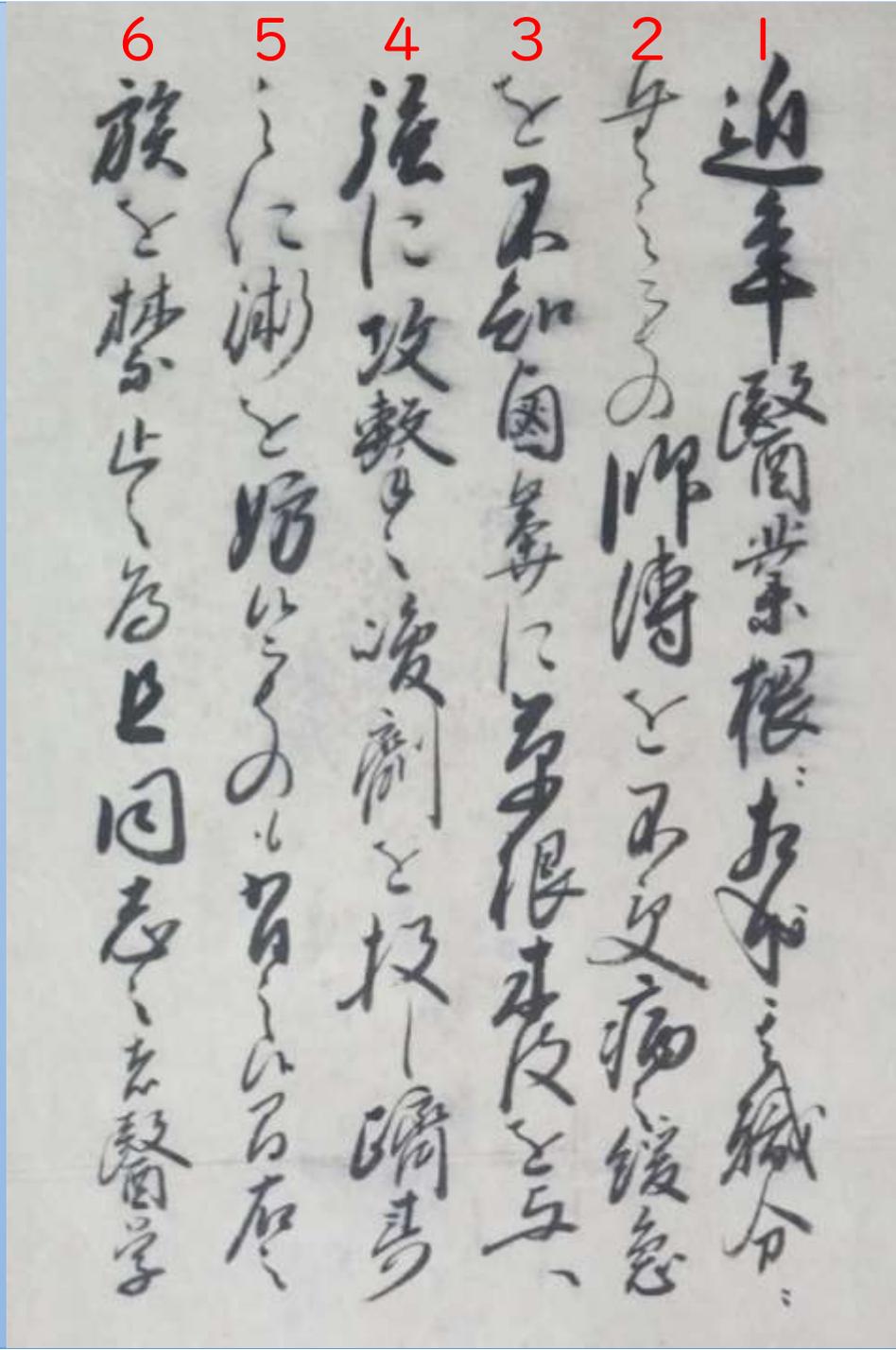
「候」、古文書初学者にとっては難読漢字のひとつではないでしょうか。5月のおうちで古文書講座でも扱われています(31ページ)。

「候」は文字の形で判断する場合と、文脈や文章内の位置で判断場合があります。「、」や「・」みたいなのも「候」と読んだりもします。

5 之仁術を妨候ものも有之候間右之



1 近年醫術業根お中々職分
2 身々々々の仰侍と云々病後急
3 と不知國毒に事得本皮と云
4 法に攻敵と、液劑と投し躰
5 之仁術と妨候ものも有之候
6 間右之



5 之仁術を妨候ものも有之候間右之

文脈で判断するにあたっては、
文語調の文体に慣れていると
有利です。

4月のおうちで古文書講座でも
説明されているように、活字に
なった古文書を読んで、漢文訓
読の文体に慣れておくと、くずし
字がわからなくても推定できる
ことがあります。

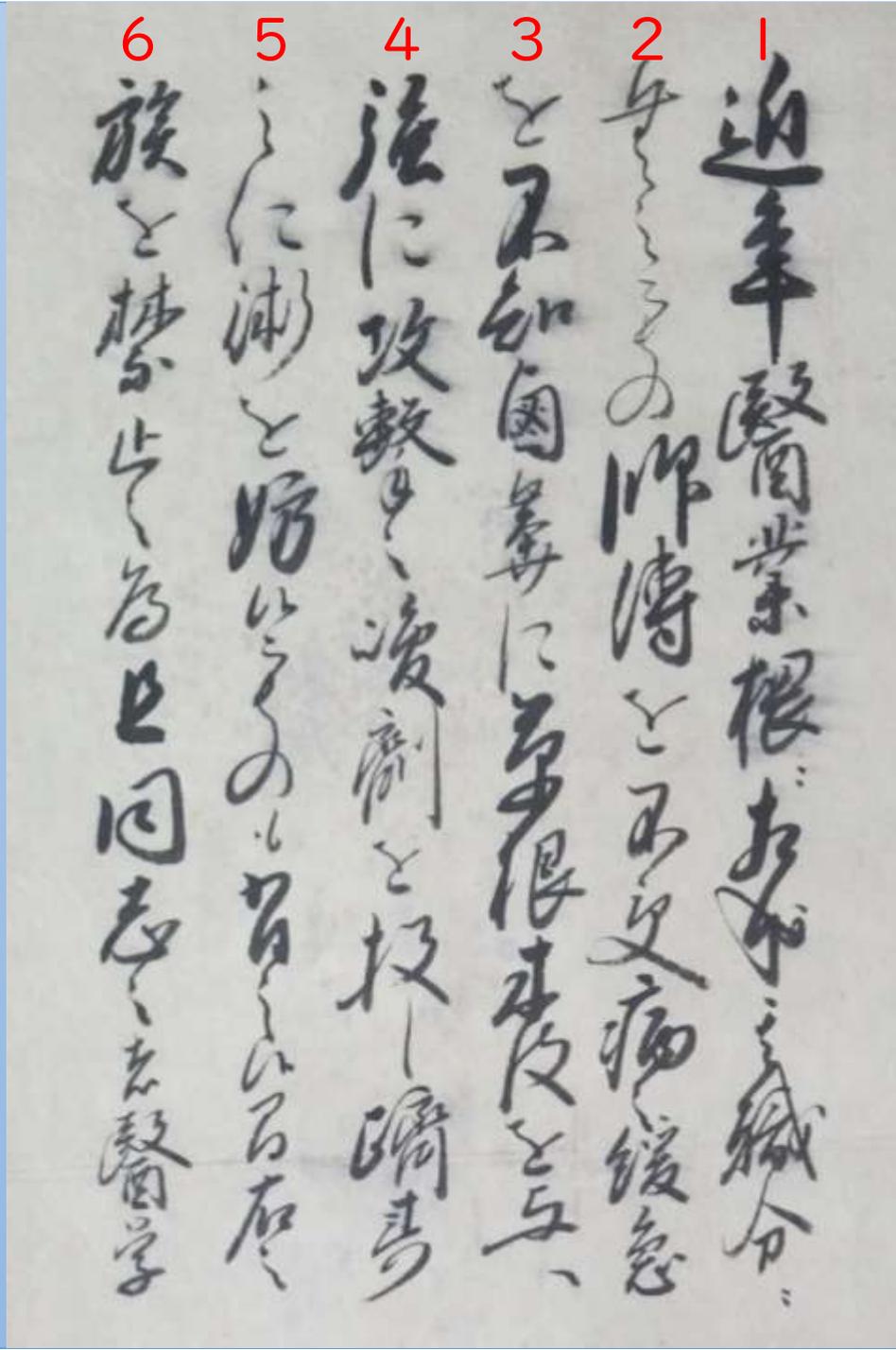
活字になった古文書にもぜひ
親しんでください。

「有之」(これあり・これある)は2行目の「無之」の説明で触れましたが、このように頻出の言葉です。

一般に、よく使われる文字ほどくずし方がきつくなり、私たちが知っているような、楷書の形から離れていきます。

「有」は現在使われている文字とくずし字の形が大きく異なるので、辞典できちんと確認しておきましょう。

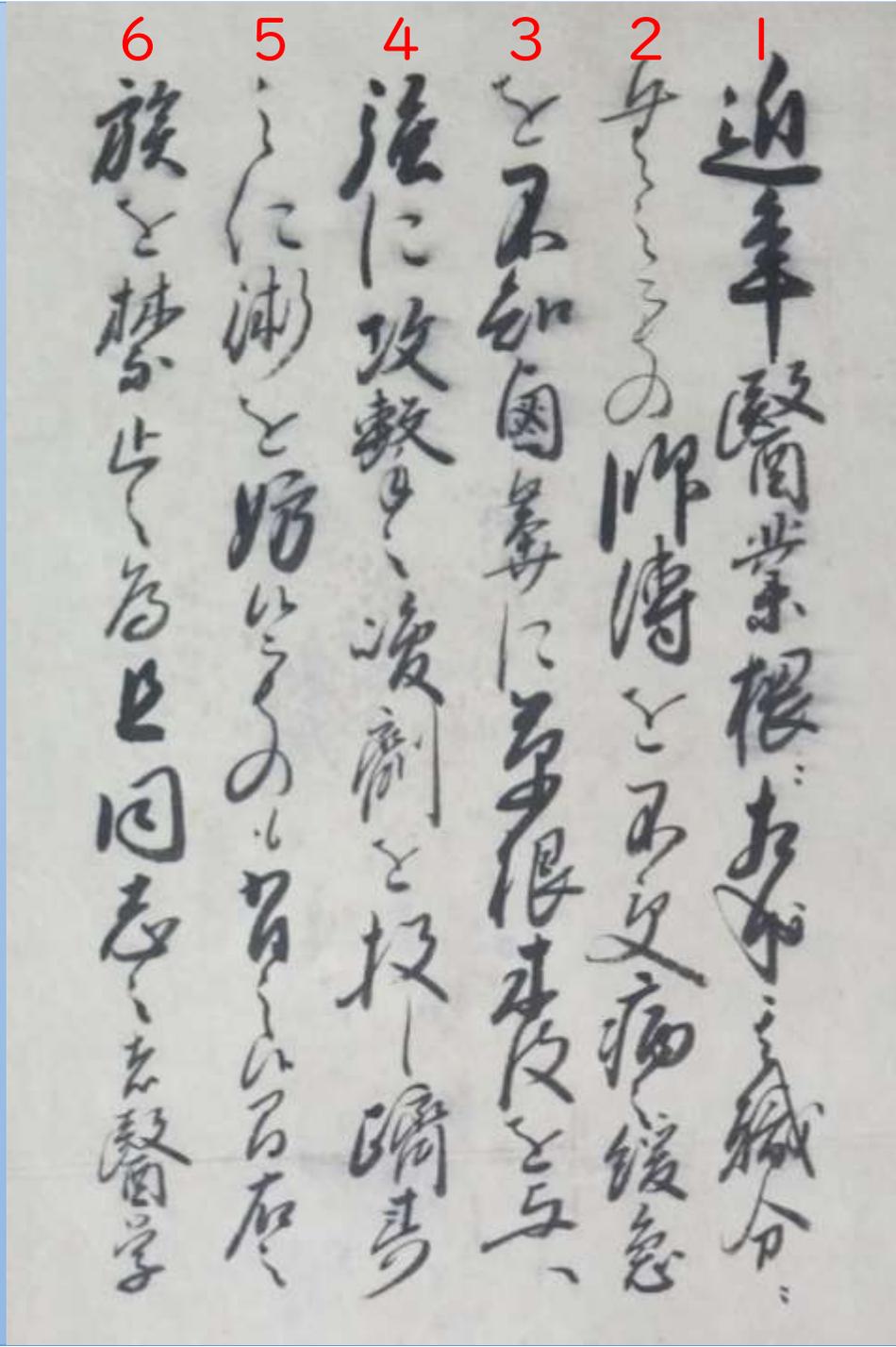
5 之仁術を妨候ものも**有之**候間右之



1 近年醫商業根お中ニ職分
2 身々々々の仰滞と云々病緩急
3 と不知國毒に事得來夜と云々
4 法に攻敵と、液劑と投し躰步
5 之仁術と好むもの習ふる所
6 族と禁ふとるは同を、古醫學

5 之仁術を妨候ものも有之候間右之

「候」はこの「候」と同じですね。



5 之仁術を妨候ものも有之候間右之

「間」も頻出の文字です。
5月のおうちで古文書講座でも扱われていました(56ページ)。

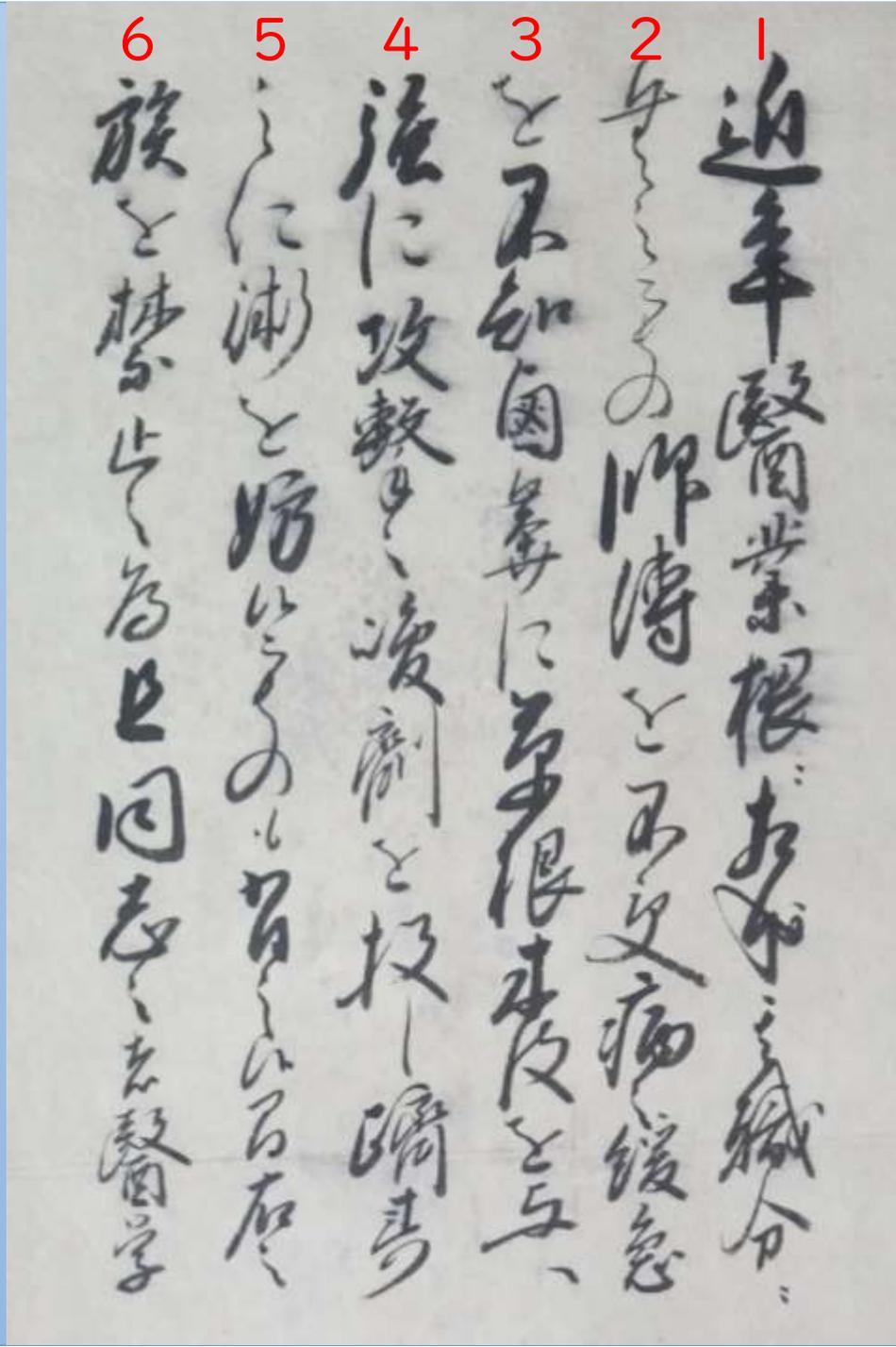
文字を見ると、上にあるひらがなの「つ」のような部分がくもんがまえで、その下に「日」が書かれていることがわかるかと思えます。この中身の部分が「耳」になれば「聞」、「各」であれば「閣」と読むことになります。

1 近年醫學業根お中ニ職分
2 身々々々の仰侍と云々病緩急
3 と不知國毒に事得來夜と云々
4 法に攻敵と、液劑と投し躰步
5 くに測と好いふのし言ふる所
6 族と禁ふしるる且同志と云々醫學

5 之仁術を妨候ものも有之候間右之

「間」は、現代語に置き換えると「…ので」「…ゆえに」と訳すことができます。

現代語の「あいだ」に近い意味で使われることもあります。理由をあらわすものとして出てくることが多い言葉です。

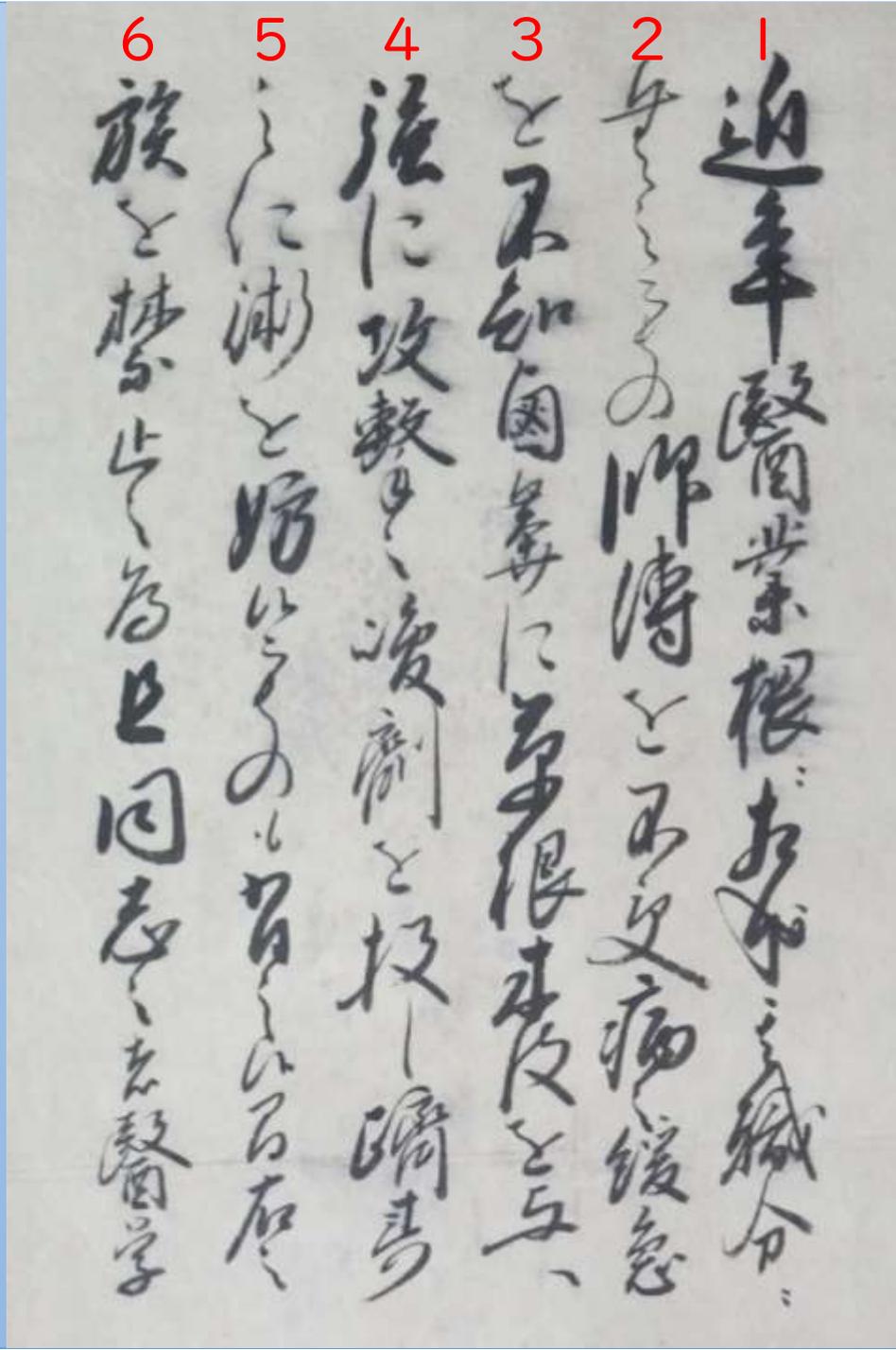


5 之仁術を妨候ものも有之候間右之

「右」は問題なく読めると思いますが、ふつうはもっとくずれた形で出てきます。

「○右衛門」など、特に人名で出てくることが多いので、同じように出てくる「左」とあわせて形を確認しておきましょう。

「之」はここで判断してもよいですが、保留しておいてもかまいません。

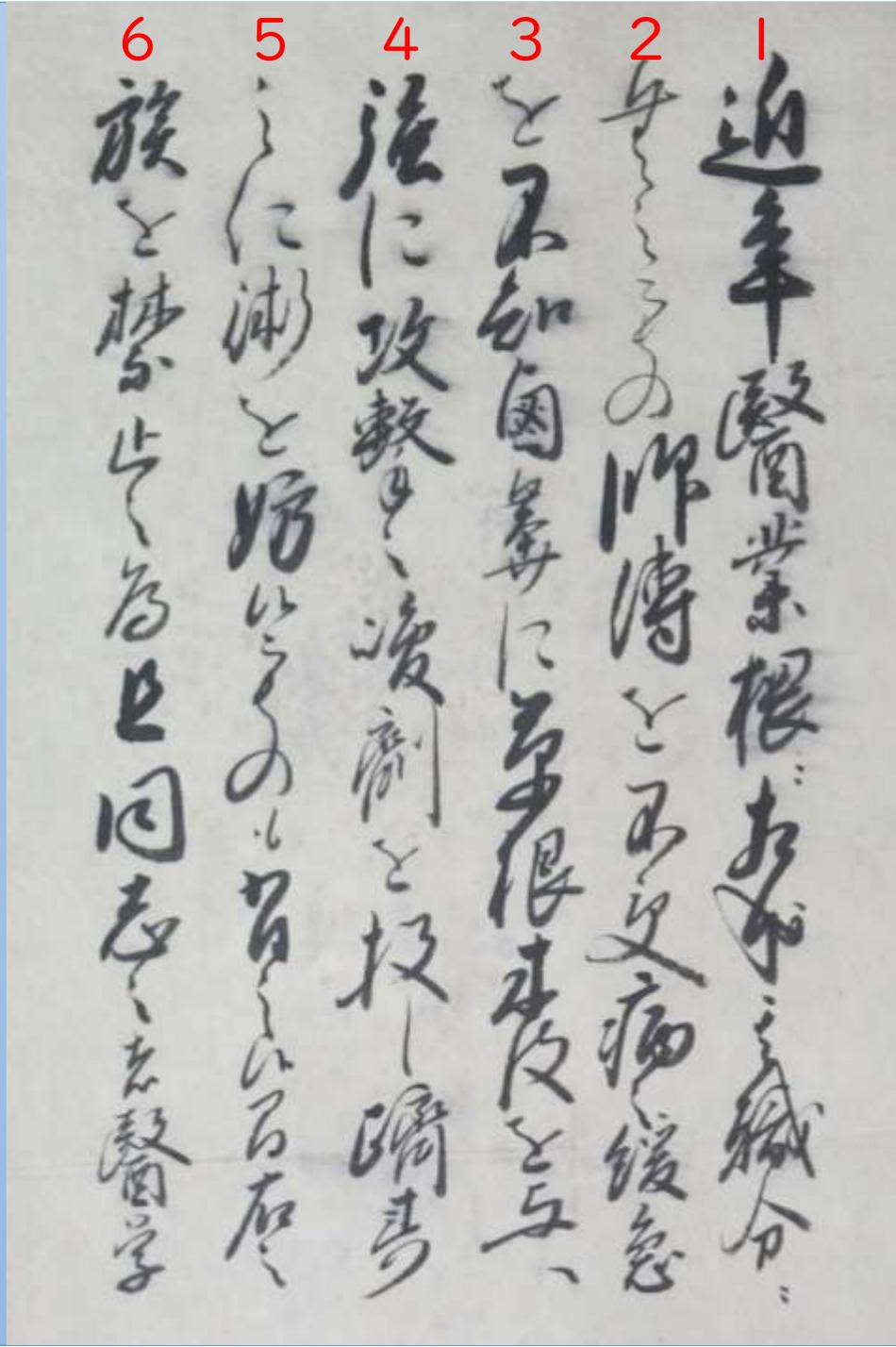


6 族を禁止之為且同志之者醫學

「族」も読みやすいと思います。この部首は〈かたへん〉と言いますが、くずし方によっては〈へん〉などに見分けがつかない場合もあります。辞典で形を確認しておきましょう。

ここでも「を」。1行目以外全ての行に出てきましたね。

前の行からの続きで、「右」「?」「族を」とくるので、5行目の末尾は「々」ではなく「之」だと判断します。



6 族を禁止之為且同志之者醫學

「禁止」は大丈夫でしょう。
「禁」の「示」が少しくずれてい
ますが、文字の形から判断でき
ると思います。

「之」はこれまでのものと同じ形
ですから、ここで判断してしまっ
てもかまいません。

「為」は頻出の文字です。
もっとくずれて「ゐ」のようにな
る場合も多いです。辞典で形を
確認しておきましょう。

1 近年醫學界におおむね職分、
2 身々々々の仰滞とあり病緩急
3 と不知國毒に事得來及と云、
4 法に攻敵と、液劑と投し、
5 くに測と好むものありるを
6 族と禁せしむるは同志之者醫學

6 族を禁止之為且同志之者醫學

「且(かつ)」は「旦(たん)」と
区別がつかないので、ここでは
保留しておいてもかまいません。

ただ、「A且つB」でAとBの並
列を示すことが読解の助けにな
ることもあります。

「旦」はあまり文中には出てこ
ないので、仮に「且」として進ん
でみましょう。

「同志」、少なくとも「志」は読めるのではないのでしょうか。この形だと「同」は「問」の可能性もありますが、「志」と熟語をつくるところから「同志」と判読したいところです。

「者」は頻出の文字です。これまでのうちで古文書講座でも、5月(33ページ)と7月(28ページ)で扱われています。もっと簡潔な形にくずされて、ひらがなの「は」として扱うこともあります。「者」のくずしをマスターすれば、読める文書の幅がぐっと広がります。

6 族を禁止之為且同志之者醫學

1 近年醫學根...
2 身...
3 と不知國毒に...
4 法に攻敵...
5 くに滅と...
6 族と禁...

1 近年醫學業根お中ニ職分
2 身々々々の仰滞と云々病緩急
3 と不知國毒に事得本皮と云
4 法に攻敵と、液劑と投し躡步
5 くに測と好いふのい言ふる所
6 族と禁ふしるると同志之者醫學

6 族を禁止之為且同志之者**醫學**

「醫」は1行目と同じです。

「学」は形から判断できますし、上の「醫(医)」と熟語になることから「学」でよい、という判断ができます。

12 11 10 9 8 7

精錬之為醫學館相立度候段
津波所 津波所 津波所 津波所 津波所
代 代 代 代 代
去 去 去 去 去
合 合 合 合 合
永 永 永 永 永
年 年 年 年 年

永年
辛亥 二月

7 精錬之為醫學館相立度候段

「精錬」の「精」はなんとなく読めるのではないのでしょうか。〈こめへん〉とつくりの「青」、ともに典型的なくずし方です。

「錬」はそのままでは厳しいかもしれませんが、〈かねへん〉であることと、つくりが「東」のくずしであることがわかればその組み合わせで読むことができます。

「青」や「東」など、つくりにくることが多い文字のくずしを抑えておけば、その何倍もの文字を判読する手がかりにできます。

12 11 10 9 8 7

精錬之為醫學館相立度候段
津波所 津波所 津波所 津波所 津波所
代お頼の糸々お遠公物支覚約者
去年波の糸々お遠公物支覚約者
合お全波の糸々お遠公物支覚約者

永正四年 二月

7 精錬之為醫學館相立度候段

「之為」と「醫學」はともに6行目に出てきたものと同じ形です。

「館」は「館」の異体字（同じ意味を持つ違う文字）です。今回はへんの部分が明瞭ですので、「館」と判断できますが、くずし字だと区別がつかない場合もあります。その場合は通じやすい「館」にしておくといいでしょう。

12 11 10 9 8 7

精錬之為醫學館相立度候段
津波所 津波所 津波所 津波所 津波所 津波所
代 代 代 代 代 代
合 合 合 合 合 合
永 永 永 永 永 永

永 永 永 永 永 永
辛 亥 二 月

7 精錬之為醫學館相立度候段

「相」は1行目にも出てきました。頻出の文字なので、とてもくずし方がきつくなっています。辞典で形を確認しておきましょう。

「立」も頻出とまでは言えませんが、よく出てくる文字です。楷書だと3・4画目にくる点が判読のポイントです。

「度」はそれ自体もよく出てきますし、「渡」などのつくりになることも多い文字です。特に「たし(たき)」と呼んで、「…したい」という願望の助動詞としてよく使われます。7月のおうちで古文書講座35ページにも出てきました。

12 11 10 9 8 7

精錬之為醫學館相立度候
段 波所 法願之 条 取台方
代 頼 系 女 遠 公 就 文 堂 約 書
去 年 波 所 法 願 中 入 用 法 割
合 中 全 法 公 法 願 状 中

永正四年
辛亥 二月

7 精錬之為醫學館相立度候段

「候」は5行目で出てきました。基本的なかたちですので、このまま覚えておいてもよいでしょう。

「段」はちょっと古文書に慣れた人でも悩む文字ではないでしょうか。辞典で形を確認しておきましょう。

「段」や「間」、「条」、「所」・「処」などは、文と文をつなぐ接続詞として使われることが多く、文意を取るうえで重要な手がかりになることがあります。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫者能おの度候
津波所 津波之^ハ名^ハ取^ル方^ニ也
代お頼の糸女お遠公就^ハ支^ル覚^ル者^ハ
去年波^ハら^ハる^ハ所^ニ入^ル用^ニ候^ハ割
合^ハ今^ハ公^ハ波^ハら^ハる^ハ所^ニ入^ル用^ニ候^ハ割

永正四年
二月

8 御役所 江御願立二付今般各方物

「御役所」も文字の形でなんとなく読めてほしいところです。

「御」は頻出の文字です。ここではそれほどくずれていませんが、普通はもっと簡略化されて出てきます。

「役所」、〈ぎょうにんべん〉はこのようになることもあれば、〈にんべん〉と区別がなくなることもあります。「所」もくずし方を辞典で確認しておきましょう。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫者能おの度候
津波所 江願之 旨と取合方也
代お願の糸女お遠公就支覚約者
去年波しんを以取中し入用候割
合中人立波公江願状申

永正四年 二月

8 御役所江御願立二付今般各方物

「所」の右下に小さく書かれた「江」。こういう場合はひらがなの「へ(え)」として、格助詞として用いられていると判断します。

近江国を指す「江州」などのように、漢字として使われている場合と区別するため、翻刻ではひらがなとして用いられる「江」や「者(は)」、「而(て)」などを小さく右寄せにして示すことがあります。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學館にお度候
津波所 法願之旨と取旨方也
代お頼の糸々お遠公物支覚約者
去年波しんそん船中入用諸割
合中全波公法頼状申
永正四年 二月

8 御役所江御願立二付今般各方物

この「御」はこの「御」よりももう少しずしがきつくなっています。

「願」はなんとなく読めますでしょうか。もう少しずれてくると「預」や「頼」などと区別がつきづらくなります。辞典で形を確認しておきましょう。

「立」は7行目に出てきました。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學能おの度候
津波所 法願之旨と取旨方也
代お願の糸女お遠公物支覚約者
去年波のしそ山形中入用諸割
合中全公波の法願状申

永正四年 二月
辛亥

8 御役所江御願立ニ付今般各方惣

「ニ」は1行目にも出てきましたね。

「付」も頻出の文字です。ここのように「ニ付」などという形で出てくることが多いですね。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫者能おの度候
津波所 法願之 旨と取台方也
代お頼の糸女お遠公物 支堂約者
去年波しんそん 船中入用 諸割
合中全波公法 頼状也

永正四年
辛亥 二月

8 御役所江御願立二付今般**各方物**

「各」と「方」はあまりくずれていないので、判読しやすいのではないのでしょうか。いずれも頻出とまではいきませんが、よく出てくる文字です。辞典で形を確認しておきましょう。

「惣」もよく出てくる文字ですが、現代語ではあまり使わないことから、判読が難しいかもしれません。「物」のくずし方をおさえれば、その応用で判断できます。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學能おの度
津波所 法願之 旨と取旨方也
代お頼の糸女お遠公就支堂約者
去年波しんを以形中入用諸割
合お全公波公法頼状也

永正四年
辛亥 二月

9 代二相頼候条無相違候就夫盟約書江

「代」はそのまま読めますね。
前の行の末尾とつながって「惣
代」という熟語になります。

「二」にはもう慣れてきたでしょ
うか。
「相」も3回目ですね。

「頼」も大丈夫でしょう。8行目
の「願」との共通点・相違点を
確認しておきましょう。

12 11 10 9 8 7

精沛、為醫學能、お之度、
津波所、法頼之、お之取、
代、お頼、お之、お之、
お之、お之、お之、
お之、お之、お之、

永正二年
二月

「候」が2回出てきますが、いずれも同じ形で、これまで出てきたものとも共通です。

9 代二相頼候条無相違候就夫盟約書江

「条」は「條」の異体字で、よく出てくる文字です。接続助詞のように使われ、「…なので」、「…ゆえに」と因果を示す言葉として使われます。

「無」「相」はいずれも既出ですが、「無相」「？」ときたら「？」には「違」が入る可能性が高いです。ここではくしんにように「麦」が乗っている異体字が使われていますが、私の環境では表示できないので、仮に「違」を使っています。

12 11 10 9 8 7

精誠なる醫學能おの度
津波所 津波所 津波所
代お頼の糸女お遠公就
去平波の糸女お遠公就
合お全公波の糸女お遠公就

永正四年
二月

9 代二相頼候条無相違候就夫盟約書江

「就」はやや難しいかもしれませんが、「夫」は読めるのではないのでしょうか。「就夫」で「夫(それに就(つ)き)」と読みます。

この「就」も現在の形とは異なるのでわかりづらいかもかもしれませんが、実際にはもっとくずれた形で出てくることが多い文字です。必ず辞典で形を確認しておきましょう。

12 11 10 9 8 7

精沛、為醫學能、お之度、
江波、所、法、頼、之、名、と、取、台、方、也、
代、お、頼、の、系、々、お、遠、公、就、文、堂、約、書、
合、お、全、公、波、公、法、頼、状、
合、お、全、公、波、公、法、頼、状、

永正四年
二月

9

代二相頼候条無相違候就夫盟約書江

「盟」は部首のさら(皿)がわからなくても、上に乗っている「明」から推測して判読します。「明」はよく出てくる文字なので、ここでくずし方を確認しておきましょう。

「約」と「書」はさほどくずされていませんね。「約」のいとへんは典型的なくずし方ですので、形をおさえておきましょう。

「江」は8行目で出てきたものと同じですね。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學部にお度候
津波所 津波所 津波所
代お頼の糸女お遠公就支堂約者
去年波の糸女お遠公就支堂約者
合お全波の糸女お遠公就支堂約者

永正四年
二月

10

連印致し候上者御願中之入用者銘々割

「連」は頻出とまでは言いませんが、よく出てくる文字です。ひらがなの「れ」として読むこともあります。おなじく「しん」にようの「達」と区別が付きづらい場合もありますので、あわせて形を確認しておきましょう。

「印」もよく出てきます。へんとつくりが上下に並ぶような形に並んでいます。「群」や「松」なども同じようにへんとつくりの並びが上下になることがあります。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學館にお度候
津波所 津波所 津波所
代お願ひ糸女お遠公就支堂約者
去年波しんそん新中入用諸割
合中全波公津波願状
永正四年 二月

「致」は頻出の文字です。同じく頻出文字の「被」と区別がつきにくいので、きちんと形をおさえしておく必要があります。文意を取るうえでも非常に重要な文字です。

「し」はひとまずおいておいて、「候」はもう大丈夫ですね？「上」も現在使われる文字とほぼ同じ形です。

ひらがなとして用いられる「者(は)」が判読できるようになれば中級クラスとみてよいでしょう。文字の形とあわせて、「候上者(そうろううえは)」という並びも判読の手がかりになります。

10 連印致し候上者御願中之入用者銘々割

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學館にお度度
津波所 法願之旨と致台方也
代お頼の糸々お遠公就支覚約者
去年波しんを以紙中に入用諸割
合書全公波公法頼状申

永正四年
辛亥 二月

10 連印致し候上者御願中之入用者銘々割

「致」「?」「候上者」という並びから、「?」は「致」の送り仮名「し」であると判断します。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫者能おの度候
津波所 法願之 旨と取旨方也
代お願の糸女お遠公就支堂約者
去年波しんそん新中入用諸割
合中人立波公法願状也

永正四年
辛亥 二月

10

連印致し候上者御願中之入用者銘々割

「御」は3回目の登場ですが、この文書ではこの「御」が一番くずし方がきついですね。とはいえまだ丁寧な方で、もっと省略される場合もあります。「御」の基本形としてこの形をおさえておきましょう。

「願」は8行目にも出てきましたが、ここでは部首である〈おおがい〉のくずしがきつくなっています。こちらの方が〈おおがい〉の基本的なくずし方です。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學部にお度候
津波所 津波之旨と取合方也
代お頼の糸女お遠公物支當約者
去年波しんそん船中入用諸割
合中人全波公位頼状申

永正四年 二月

10 連印致し候上者御願中之入用者銘々割

「中」は読めるでしょうか。「申」
などとも形が近いので、あわせて
確認しておきましょう。

「之」はまたもおいておいて、
「入用」も大丈夫でしょうか。

「者」は7文字前に出てきたもの
と同じです。形もいっしょです
ね。

「御願中」「?」「入用」とくるの
で、「?」は「之」ではないかと
推定します。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學館にお度度
津波所 津波所 津波所
代お頼の糸女お遠公就支堂約者
去年波の糸女お遠公就支堂約者
合お全波の糸女お遠公就支堂約者

永正四年
二月

10
連印致し候上者御願中之入用者銘々割

「銘」は読めなくても、つくりの「名」はわかるでしょう。それと7行目の2文字目「鍊」と同じくかねへん〉であることがわかれば、組み合わせて「銘」と読めます。

「々」はいったん保留してもよいですし、「銘々」という言葉から類推して「々」を仮にあてておいてもよいでしょう。

「割」も読めるでしょうか。次の行の頭が「合」で「割合」という熟語になるので大丈夫そうだな、と判断をします。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫者能おの度候
津波所 津波所 津波所
代お頼の糸女お遠公就支覚約者
去年波の糸女お遠公就支覚約者
合お全公波の糸女お遠公就支覚約者

永正四年
二月

合出金可致候依之頼状如件

「合」は見た目通りですし、前の行からの続きで読めるでしょう。

「出」は頻出の文字です。5月のおうちで古文書講座でも出てきました(48ページ)。

「金」は「全」と区別がつきませんが、上が「出」なので「出金」という熟語から推定しましょう。「金」という文字もよく出てきますが、だいたいお金の話で出てくるので推測ができます。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學館にお度度
津波所 津波所 津波所
代お頼の糸女お遠公物
去年波の糸女お遠公物
合出金可致候依之頼状如件

永正四年 二月

合出金可致候依之頼状如件

「可」は頻出の文字です。カタカナの「マ」のような形で出てきます。5月のおうちで古文書講座でも扱われていました(48ページ)。

「致」は10行目にも出てきました。同じ形であることを確認しておきましょう。

「候」はもう大丈夫ですね？(2回目)

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學館にお度度
津波所 法頼之 旨と取旨方也
代 お頼の糸女にお遠公 就支堂約者
去年波のりそん 船中と入用 浪割
合出金可致候 頼状如件

永正四年 二月 辛亥

合出金可致候**依之頼状**如件

「依」もよく出てくる文字です。〈にんべん〉と「衣」が確認できますね。「衣」のくずしはおさえておくと応用がききます。

「之」はまたおいといてもいいですが、「依之」で「これによって」と読むことが多いので、「之」と読んでおいてもよいでしょう。

「頼」は9行目に出てきましたね。

「状」も現在の形と大きく異ならないので大丈夫でしょう。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學館にお度度
津波所 法願之 旨と取旨方也
代お頼の糸々お遠公 就支堂約者
去年波しんそん 船中入用 浪割
合出金可致候依之頼状也

永正四年 二月 辛亥

合出金可致候依之頼状如件

「如件」は4月のおうちで古文書講座にも出てきました。文末のおきまりの表現です。「件(くだん)の如(ごと)し」と読みます。

「如」もよく出てくる文字です。ここでは文脈から、文字を見なくても判読が可能ですが、きちんと形を確認しておきましょう。

12 11 10 9 8 7

精進の爲醫學館におく度候
津波所 津波所 津波所
代お頼の糸女お遠公就支堂約者
去年波の糸女お遠公就支堂約者
合お全公波の糸女お遠公就支堂約者

嘉永四年 二月
辛亥

12

嘉永四年

辛亥

二月

日付部分は
(和暦)(数字)年(+干支)
+月日
が基本形です。

ここでは「嘉永」さえ判読でき
れば、「四」と「辛亥」のいずれ
かはわからなくても、年表など
で調べることで確定できます。

一から九までの数字や「十」、
「廿(にじゅう)」といった日付に
出てくる数字も確認しておきま
しょう。特に五は文字の形が現
在とは大きく異なるので注意が
必要です。

12 11 10 9 8 7

精進、為醫學館、水之度、
津波所、法願之、年々、
代、お頼、の、系、女、お、遠、公、
去年、波、の、の、の、中、入、用、
合、中、全、公、波、の、法、願、状、
永、永、四、年

辛亥 二月

12

嘉永四年

辛亥

二月

嘉永4年は西暦1851年。
もうすぐペリーがやってきます

(ペリー来航は嘉永6年6月3日(西暦1853年7月8日))。

なお、別紙に宛先があります。
いずれも石和（現笛吹市）近辺
の医者たちです。

石和御支配所

吉岡西齋殿
三枝松寿殿
小出玄弥殿
志村甫立殿
辻 甫順殿

石和御支配所

吉岡西齋殿
三枝松寿殿
小出玄弥殿
志村甫立殿
辻 甫順殿

おわりに

さて、ひとまずは古文書に書かれている文字を解読し、現在私たちが使っている文字の形に置き換えることができました。

しかし、まだ古文書の解読は終わっていません。
内容を読み取ってこそその「解読」です。

そこで…

近年醫業猥二相成其職分二
無之もの師傳を不受病之緩急
を不知鹵莽に草根木皮を与へ
強に攻撃之峻劑を投し躋寿
之仁術を妨候ものも有之候間右之
族を禁止之為且同志之者醫學
精鍊之為醫學館相立度候段
御役所江御願立二付今般各方惣
代二相頼候条無相違候就夫盟約書江
連印致し候上者御願中之入用者銘々割
合出金可致候依之頼状如件

嘉永四年

辛亥二月

石和御支配所

吉岡西齋殿

三枝松寿殿

小出玄弥殿

志村甫立殿

辻甫順殿

今回読んだ内容は
右の通りです。

読みやすくするため
旧字を新字に
改めます。

近年医業猥二相成其職分二
無之もの師伝を不受病之緩急
を不知鹵莽に草根木皮を与へ
強に攻撃之峻劑を投し躋寿
之仁術を妨候ものも有之候間右之
族を禁止之為且同志之者医学
精鍊之為医学館相立度候段
御役所江御願立二付今般各方惣
代二相頼候条無相違候就夫盟約書江
連印致し候上者御願中之入用者銘々割
合出金可致候依之頼状如件

嘉永四年

辛亥 二月

石和御支配所

吉岡西齋殿

三枝松寿殿

小出玄弥殿

志村甫立殿

辻 甫順殿

また、ひらがなとして
使われている「江」や
「者」を小さくして
右寄せにします。

近年医業猥二相成其職分二
無之もの師伝を不受病之緩急
を不知鹵莽に草根木皮を与へ
強に攻撃之峻劑を投し躋寿
之仁術を妨候ものも有之候間右之
族を禁止之為且同志之者医学
精鍊之為医学館相立度候段
御役所^江御願立二付今般各方惣
代二相頼候条無相違候就夫盟約書^江
連印致し候上^者御願中之入用^者銘々割
合出金可致候依之頼状如件

嘉永四年

辛亥 二月

石和御支配所

吉岡西齋殿
三枝松寿殿
小出玄弥殿
志村甫立殿
辻 甫順殿

この「者」は、「同志
之者（もの）」と、漢
字として使われている
ので、小さくしません。

近年医業猥二相成其職分二
無之もの師伝を不受病之緩急
を不知鹵莽に草根木皮を与へ
強に攻撃之峻劑を投し躋寿
之仁術を妨候ものも有之候間右之
族を禁止之為且同志之者医学
精鍊之為医学館相立度候段
御役所^江御願立二付今般各方惣
代二相頼候条無相違候就夫盟約書^江
連印致し候上^者御願中之入用^者銘々割
合出金可致候依之頼状如件

嘉永四年

辛亥二月

石和御支配所

吉岡西齋殿

三枝松寿殿

小出玄弥殿

志村甫立殿

辻 甫順殿

さて、ここまで来たら
あと一歩。
その仕上げを
やってみましょう。

宿題

- (1) 今回読んだ古文書の釈文（翻刻）について、
読点（、）を振ってください。
- (2) 今回読んだ古文書に、ふさわしい題名（資料名）を
つけてください。

近年医業猥二相成其職分二
無之もの師伝を不受病之緩急
を不知鹵莽に草根木皮を与へ
強に攻撃之峻劑を投し躋寿
之仁術を妨候ものも有之候間右之
族を禁止之為且同志之者医学
精鍊之為医学館相立度候段
御役所^江御願立二付今般各方惣
代二相頼候条無相違候就夫盟約書^江
連印致し候上^者御願中之入用^者銘々割
合出金可致候依之頼状如件

嘉永四年

辛亥二月

石和御支配所

吉岡西齋殿

三枝松寿殿

小出玄弥殿

志村甫立殿

辻甫順殿

読点（、）を打つには、
声に出して読んでみる
のがよいでしょう。
周囲の迷惑にならない
ように、声を出して
読んでみましょう。

近年医業猥二相成其職分二
無之もの師伝を不受病之緩急
を不知鹵莽に草根木皮を与へ
強に攻撃之峻劑を投し躋寿
之仁術を妨候ものも有之候間右之
族を禁止之為且同志之者医学
精鍊之為医学館相立度候段
御役所^江御願立二付今般各方惣
代二相頼候条無相違候就夫盟約書^江
連印致し候上^者御願中之入用^者銘々割
合出金可致候依之頼状如件

嘉永四年

辛亥二月

石和御支配所

吉岡西齋殿

三枝松寿殿

小出玄弥殿

志村甫立殿

辻 甫順殿

題名（資料名）は、
その古文書がいったい
何のために作られたの
かが一目でわかるもの
が望ましいですね。

宿題

宿題はWord形式にしてホームページに掲載してあります。

解答例（というほどのものでもありませんが）は
来週8月29日（土）に公開します。

おわりに

また、今回読んだ古文書は、
現在当館の常設展示室内

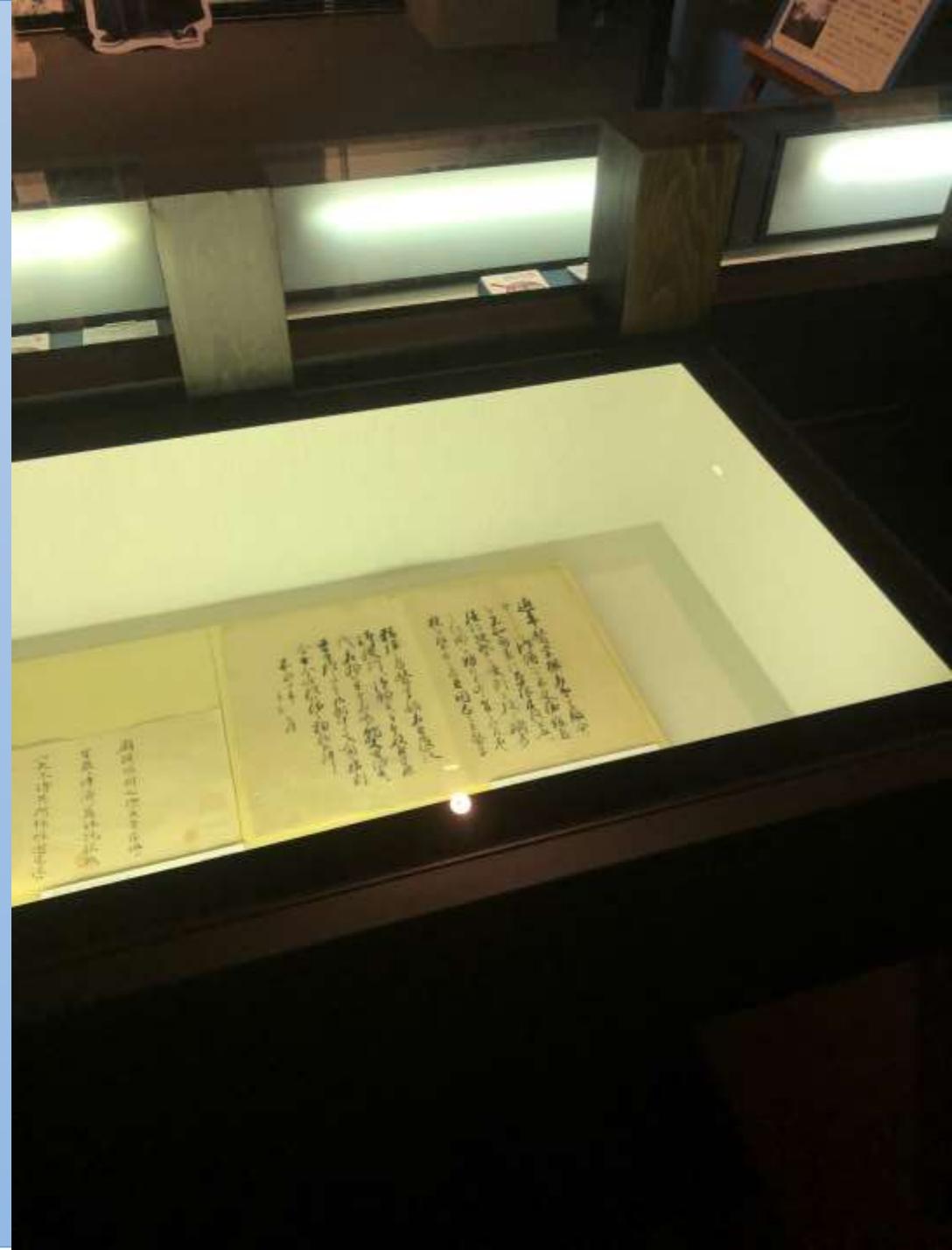
「転換期に向き合う」コーナーで
展示中です。



おわりに

実物をご覧になりたい方は、
感染症や熱中症に十分注意して
ご来館ください。

※ご来館の際は、マスクの着用、
出入り口での検温など、
感染症対策にご協力ください。



おわりに

最後までご覧いただき、ありがとうございました。

疫病退散！



ヨゲンノトリ